



第30号

発行 東京清陵会(諏訪清陵高等学校同窓会・東京支部) 会長=原大 編集=86回生(昭和55年入学)&事務局 <http://www.tokyoseiryokai.jp>  
事務局 TEL 080-3939-0266 mail tokyoseiryokai2017@gmail.com DTP=スタジオパラム

## 多様な仲間と青臭く、対話を楽しみましょう

今年の東京清陵会では、令和の幕開けにあたって今までと少し違う形で、同窓生同士がみんなでワイワイ語り合う場、名付けて「清陵カフェ」を作りたいと考えています。テーマは、6月の諏訪での同窓会総会と同じ「2030年の諏訪を語り合い、デザインしてみよう～お互いの多様性を楽しみながら～」。この「東京清陵会だより」も同じテーマで特集を組みました。

「そもそも、どうして私たちは同窓会に集まるのか」。当番幹事をやるに当たって、一昨年来、ずっと私たち86回生は問い続けてきました。普通に考えれば、「同窓生としての義務だから」。もちろん「在校生を支援するため」。それは確かにその通りです。しかし、本当にそれだけなのでしょうか。義務だけでこれだけ多くの人たちが集まるのだろうか、同窓会の本質的な魅力とはなんだろうか。

私たちが思い当たったのは、そこに自分たちのその後の「青臭い」原点があり、そこに立ち戻れるからでは、ということです。清陵の同窓生と会って話すと、な

ぜかすつと昔に戻れてしまう、普段してこない真剣な議論を夢中でしてしまった、そんな経験はありませんでしょうか。最高に青臭い「自反而縮雖千萬人吾往矣」という言葉、今も現役清陵生はこれをモットーにしていると聞きます。大人になった私たちは、現実には甘くない、そんなにカッコよく行かないよ、と思いつつ、仲間と自分にそいつが残っているのを再発見する、そんな場を求めているのではないか。

もう一つ、私たちは清陵同窓会の魅力は「多様性の宝庫であること」だと捉えました。世間が言い出すよりずっと前から清陵は私たち一人一人の違い、「多様性」を大切にしてきたところ。「自反而縮雖千萬人吾往矣」は多数に組まない個の存在を何より尊重する教えでした。そんな同じ学校に通ったという点を共通項としながらも、年齢、性別、キャリア、住んでいるところ、思想、信条、それぞれが経験している「人生」が全く違う私たち。

「答えがない時代」と言われ、非連続の「イノベーション」を生む「多様性」

が求められている今、清陵の同窓会だからこそ、多様な同窓生同士がお互いをもっと知り、違いを認め、青臭く話し合っ、新しい時代に向けた何かを作るきっかけづくりがしてみたいと思いました。

皆で話し合うテーマは、「2030年の諏訪/約10年後の諏訪の未来」としました。諏訪の未来を語ることは、東京と日本の未来を語ることにダイレクトに繋がると考えます。そこに、多くの課題があることは目に見えています。同時にテクノロジーの進歩やグローバルな状況の変化によって想像を絶する変動が考えられ、様々なチャンスもありそうです。

そして、諏訪はかつて何度も逆境を乗り越えてきた歴史を持っています。

「人口減少社会」の厳しさは認識しながらも、「自反而縮雖千萬人吾往矣」のスピリットを思い起こして、令和の初めにみんなでワクワクするような2030年の諏訪、ひいては日本を語りあってみようじゃないですか。皆さん奮って、気軽にご参加いただければと思います。

林 聡一 (86回生)

2019年度

## 東京清陵会 第53回総会案内

■日時:2019年10月6日(日) 12時～16時30分

- 総会:12時～(受付開始 11時30分～)  
(昼食の用意はございません)
- 開会式:12時45分～
- キーノートスピーチ&清陵カフェ@東京
- 懇親会
- 閉会式:16時～16時30分

■場所:アルカディア市ヶ谷(私学会館) 3階「富士の間」

東京都千代田区九段北4-2-25 電話 03-6685-0541

※市ヶ谷駅(JR、東京メトロ有楽町線、南北線、都営新宿線)下車、徒歩2分

■懇親会会費:8,000円

(61回生以前6,000円、104回生～115回生6,000円、  
116回生以下2,000円)

※当番幹事:86回生、次期当番幹事87回生

サブ幹事91回生、96回生、106回生、116回生、120回生(学生幹事)

※年会費未納の方は当日お支払お願いいたします(賛助金も受け付けます)。

●ご面倒ですが

出席、欠席いずれの場合でも、同封の返信用ハガキにご記入の上、

9月13日(金)必着にてご返送ください。

●返信ハガキ裏面は、個人登録情報に、変更ある場合のみ記載する方式にしました。変更ない場合は、氏名、回生のみ記載の上、チェックボックスにをしてください。

2019年  
総会・懇親会  
テーマ

# 2030年の デザインして

同窓生同士の「多様性を楽しみ」、みんなが「諏訪の未来」について語り合う場を作るにあたり、それほど先でなく、しかし、理想を語って欲しいとの思いで「10年先」を考えてみよう。そして正解のないという意味で「デザインしよう」とテーマ設定しました。何人かの代表の思い・理想を発信していただき、それがきっかけとなり多様性を感じながら皆さんが青臭く対話を始めることを目指して……。

## 2030年の諏訪を語り合い、 デザインするための一提言

フェアコンサルティンググループ

代表 細田明 (86回生)

国立社会保障・人口問題研究所推計によると、2030年の諏訪地域は現在の人口(約19万人)が約17万人まで減少し、65歳以上の高齢者はその3分の1(約6万人)を占めることが見込まれています。このような人口の自然減と高齢化の傾向は、県あるいは国全体とほぼ同様の傾向にあると考えられます。他方で世界における人口を俯瞰するとアジア地域、特にインドやアセアンなどの地域における人口増<sup>\*1</sup>と、この人口増を背景にしたこれら地域のGDPの高い成長が見込まれており、日本の地位は相対的に低下すると予測されています<sup>\*2</sup>。

特に日本創成会議(座長:増田寛也元総務相)では、2030年の10年後である2040年には全国の約半数にあたる896の市区町村で、出産適齢といえる20~39歳の女性の人口が50%以上減り、女性が生涯に産む子どもの数が増えても人口を保てず、諏訪地域では下諏訪町が消滅の恐れがある都市として指摘されています。

これらの推計を単純評価すれば、2030年の諏訪地域では人口減少により、空き地、空き家等の低利用・未利用空間があちこちで次々に発生する「都市のスポンジ化」や「低密度化」が進行するほか、中山間地域では、集落機能の維持が困難になる可能性があります。この結果、生活サービスの縮小・撤退、インフラの非効率化、コミュニティの存続危機、地価

の下落、景観・治安の悪化、転入減・転出増、賑わいの減少・経済活動の停滞、行政サービスの低下、医療や介護の負担と享受など世帯間のアンバランス拡大に伴う緊張などの課題に直面します。

しかし、2030年の諏訪地域は本当にこのような悲観的な状況ばかりが見込まれるのでしょうか。私見ではありますが、私は技術革新とグローバル化という観点から2030年の楽観的な諏訪もデザインできるのではないかと考えます。

技術革新という観点からは、2030年頃までに人と機械・コンピュータが融合と共存・協調し、AIが人の代役となる時代が到来すると考えられています。この技術革新が実現するのであれば、例えば自宅に居ながらにして様々な商品やサービスが容易に入手できることになります。現在成長著しいインターネット通販の拡大はこの傾向の表れであり、将来は小型無人飛行機(ドローン)を使って商品が自宅に配送されることも夢ではありません。医療の分野では在宅のまま患者が医師とインターネットなどを通じて診療が行われる時代となると考えられています。購入した商品・サービスの決済も、電子化が進み、いわゆる現金を使用せずに決済を行うキャッシュレス化が進むものと考えられます。このことは、街に出かけなければ欲しい商品やサービスを得られない、あるいは現金を扱わなければ、経済活動が行えないといった従来型の経済社会のイメージを大きく変えることになるものと考えられます。

また、現在の日本はグローバル化の真只中にいます。在留外国人数は年々増加しており、2018年末時点で273万人と過

去最高に上り、日本国政府は更に人材不足が深刻な14業種(農業、漁業、飲食料品製造、外食、介護、ビルクリーニング、素材加工、産業機械製造、電気・電子情報関連産業、建設、造船・舶用工業、自動車整備、航空、宿泊)を対象に、一定の技能と日本語能力のある外国人に門戸を開こうとしています。インバウンド観光に関連して長野県白馬村では、外国人スキー客の増加と共に廃屋と化したロッジや空き地が、オーストラリアやニュージーランドなどをはじめとする外国人投資家によって多くが取得され観光客が増加しています。その結果建物や街並みの美化に繋がったり、日本の伝統文化を守ることに貢献しているとの高評価もあります。

また近年、地方創生の政府政策の一つとして、地域の多様な関係者を巻き込みつつ観光振興の舵取り役となる法人(DMO:Destination Management/Marketing Organization)の出現によって、観光による交流人口を拡大させ、地域を活性化させる原動力として注目されています。長野県だけでも一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントをはじめとするDMOは多く存在することから、グローバル化の進展が諏訪地域における人口減や産業停滞・不振といった諸課題に対して効果的な役割を果たすことを期待したいと思います。

参考文献:※1 国際連合「世界都市人口予測・2018年改訂版[United Nations(2018)]」参照 ※2 野村證券「世界の中の日本 アジアの世紀の期待と不安」(2019年1月)参照



# 諏訪を語り合い、 みよう ~お互いの多様性を楽しみながら~

**「目的工学」で多様性の  
同窓会を楽しむ、まずは  
「対話」から始めましょう。**

株式会社電通国際情報サービス (ISID)  
執行役員 先端技術推進室長 兼務  
株式会社ISID エンジニアリング  
代表取締役社長  
武田正利 (86回生)

私も、61回生、唐澤英安先輩(元SONY)との出会いから、一緒に目的工学研究所に参加させていただき、個人の目的と社会の目的を意識して、多くの方々と「駆動目標」(海外では、アポロ計画になぞらえ、ムーンショットとして広がっています)を作ることを目指しています。

「駆動目標」の特徴は、

- 1) 明確な目標：達成したかが誰の目にも明らかである。
- 2) スジの良い目標：未来に向け、進化の流れをつくり、その流れにのっていきける。
- 3) 強い目標：当事者としての実践へのコミット、そしてみんなが「わくわく」して仲間として集まる、です。ひとこと言えば、「大いなる挑戦が人を動かす」ことになります。

成功例としては「アポロ計画」「新幹線プロジェクト」「トリニトロン」「ウォークマン」「スカイエンジン」。

私の関心の始まりは、「スカイエンジン」お客様であったマツダの元専務、羽山信宏さんとの出会いから始まりました。その思い、考え方を元にISIDエンジニアリングの設立へと動いていました。羽山さんには特別顧問に就任いただき「めざすのは世界一のエンジンじゃろが！」の本の出版につながりました。

\*\*\*目的工学とは……

・目的工学とは、社会的に意義ある価値を形成するため、関係する個々の主体があるべき未来の実現を目指し、協力せざるをえないような善い目的を共有する臨時的共同体 (soft alliance / community) を形成し、必要な資源を持ち寄り、動的に目的と手段・技術の体系を調整しつつ、より高い価値を創造するために知識を総合 (synthesize) していくための、マネジメントの思想と方法の体系のコンセプトです。

・21世紀においては、あくなき利益の最大化に代わって、目的 (パーパス) の追求がビジネスにとって欠かすことのできないテーマとなってきました。イノベーションは、ますます、地球規模の課題への挑戦や、人間や社会との関わりの過程から生成されるようになります。そこでは「一体何のために」という意味が問われます。主観的な【目的の経営】がグローバルアップされるようになったのです。日本においてもモノづくりの強みを活かすためのソフトな知が要請されています。目的工学はこういった時代の経営やビジネスにおいて不可欠なイノベーションマネジメント、新事業プロジェクト、社会的イノベーションの方法論です。

目的工学は、主体的な個人の目的と個人が感じた社会の目的を、お互いの会話を通じて (もちろん個人ですが、相手を尊重して、理解する = 「相互主観」と言います。) 各人の思い (個人目的と社会目的) をハーモナイズすることで、「駆動目標」を作りだすことがひとつのゴールです。

アインシュタインは「手段はすべてそろっている。目的は混乱しているというのが現代の特徴のようだ。」と語っています。また、現在、誰かの決めた目的に

人が集まる時代ではありません。

多様性のある個は、活かされるべきです。

一般的に今イノベーションの時代と言われますが、場を作る、人を集める (特に多様な感性、価値を持っている人を集める) ことが重要です。

私は、諏訪清陵同窓会は、多様性の宝庫であると認識しています。

まずは、皆さんが多様性を感じてください。そのひとつのきっかけが、同窓会報であり同窓会総会です。さあ、皆さんも是非、耳を傾け、そしてご自身の思いを発信して「対話」してみてください。個人の目的や社会の目的を皆さんと共に考えることで、手段から脱出して、単に目的を一緒にするわけではなく、目的 (目標) をハーモナイズすることを体験いただきたい、と考えています。

手段を一致されることよりも、目的を重ね合わせる (ハーモナイズ) すること (駆動目標を創る) です。まずは、多様性を感じることをその新しい一歩が始まると考えます。同窓会で「青臭い」「対話」を通じて、「多様性」を体感してください。

参考図書：

「つくりたいんは、世界一のエンジンじゃろが」日刊工業新聞社／元マツダ株式会社取締役執行役員専務 羽山信宏 (著)

「利益や売上げばかり考える人は、なぜ失敗してしまうのか」ダイヤモンド社／紺野 登 (著)、目的工学研究所 (著)

「WISEPLACE INNOVATION 目的工学によるイノベーションの実践手法」翔泳社／紺野 登 (著)、一般社団法人 FCAJ・目的工学研究所 (著)

## 東京清陵会新会長挨拶

会長  
はら たかし  
原 大(73回生)



私は昨年10月の東京清陵会定時総会におきまして会長に選任されました73回生の原大でございます。

まずは、ご退任されました平林千義前会長のこれまでの同窓会発展へのご尽力に心から御礼申し上げます。

さて東京清陵会は清陵同窓会の東京支部ですが、母校への格別な思い入れを込めて呼称を変えて今年で四半世紀が経ちます。ここ数年、運営を担っている役員を始め、「東京清陵会を活性化するワーキンググループ」と当番幹事の皆さんの企画力と献身的な活動により、若手やミドル、女性を対象とする行事が増えて交流が活性化されています。

東京清陵会の目的は三つあり、第一が「親睦・交流」、第二が「研鑽」です。

日本の中で政・財・官・学の各界や文化・芸術なども含め、あらゆるジャンルの情報や人材が圧倒的に集積しているのが、この東京・首都圏だと思います。そしてまたここで多くの清陵の同窓生も実に幅広い分野で活躍しております。

残念ながら、東京・首都圏に居ても、普通は個々の同窓生の活躍を知る機会は殆どありません。しかし、この東京清陵会の活動や「東京清陵会だより」及びHPなどでその活躍の一端を知ったり、様々な行事、例えば既に170回以上回数を重ねている「清陵勉強会」などに参加して、そう言った同窓生との交流や研鑽の機会を持つことは、世代を越えて大いに刺激や啓発を受けることとなります。

目的の第三は、「母校生徒支援」です。東京清陵会に対する母校からの期待も大変大きくなって来ております。高校へは「学習合宿」や「キャリア教育」に様々な分野で活躍している若手同窓生を講師として派遣をしておりますし、附属中学校の「東京研修旅行」の訪問見学では、同窓生が様々なジャンルの企業や大学で受け入れております。東京清陵会なればこそ、そして最近の交流の活性化があればこそ、母校の期待に応えることができっております。こうした「母校生徒支援」活動が清陵の魅力を増して、多くの優秀な小・中学生が清陵を目指してくれる一助になればと願う昨今です。

清陵同窓会の東京支部発足から70年が経とうとしておりますが、「我々は故郷を離れ、それ故母校への思い入れは格別であり、その格別な思いを具現化したものが東京清陵会であり、東京清陵会の諸活動である。」と言う誠に清廉なる原点をベースに、今後とも同窓会活動の充実を図って参りたいと思います。

引き続きましての会員の皆様からの物心両面に亘る熱いご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます、新任のご挨拶とさせていただきます。

## 好奇心の集まり、勉強会

前会長  
ひらばやし ちよし  
平林千義(67回生)



当番幹事以来事務局に携わってまいりましたが、このたび現役を引退させていただきます。新会長、原大さん(73回生)への引き継ぎの紙面をお借りして、私と清陵について若干紹介させていただきます。

昭和39年清陵を卒業、一浪後牛山正雄先生(35回生)の勧めで北大理類へ。東京受験の為、初めて蝦夷の地に足を踏み入れたのは入学式の時でした。汽車と青函連絡船を乗り継いで26時間、心細い旅でした。仮宿泊は恵迪寮、寮長を筆頭に清陵出身者が幅を利かせて居りましたが入寮試験では不合格。教養では河西章先生(45回生)の哲学を受講し、無事単位を取得。答案用紙には「東に高さ八ヶ岳…と書いておけば良い」との先輩のアドバイスが選択の決め手でした。札幌での6年間は、清陵同窓会北海道支部に囲まれて楽しい日々でした。

学科の主任教授から「諏訪清陵高校の清陵とは霧ヶ峰のことか？」と聞かれ、返答出来ませんでした。50年後本部同窓会総会の折、小口高さん(84回生)のミニセミナーを聞いて、「清陵とは角間川の伏流水が湧き出す清水地区の丘を云う」と知り納得しました。卒業後は東京へ、団塊の世代の先頭を走る猛烈世代、ひたすら走り続けて、気がついたら定年間近、東京清陵会への係わりは此の頃からです。

私の股関節はセラミック製です、人工関節置換手術を担当して下さったのは当時東京警察病院の整形外科に居られた林弘道先生(65回生)です。林先生を紹介して下さいしたのは生越万理子さん(66回生)です。先生は東京清陵会の集まりには殆ど出て来られませんでした。初めて診察に伺った時、「俺の後輩だ！」と周囲で紹介してくれました。ちょうど事務局長をしていた時だったので、「総会までには歩けるようになるか」と云われ8年前に手術に踏み切りました。おかげで現在は健常者並に歩けます。

東京清陵会の行事で、印象深いのは30年近くも続いている清陵勉強会です。毎回、興味深いテーマが取り上げられ、老後の楽しみにせつせと通って居ります。清陵の卒業生は実に多士済々で、テーマと講師には事欠きません。原秀男さん(73回生)にタイヤの話をお聞かせ頂いた折、「イノベーションの原点は好奇心である、日本人の2/3は自分は何を知らないか、すら知らない」と聞いた時、1/3の少数派で居たいと改めて思いました。皆さんも是非聴講者や講師として勉強会に参加して下さい。

東京清陵会は「清陵で学んだことを誇りに思える場」、「母校を愛する気持ちを表す場」であります、今後ともご支援、ご協力宜しくお願い致します。



# キーノートスピーカー メンバーの考える 2030年の諏訪

清陵カフェ@東京でのキーノートスピーカーである加藤さん、林さんから「2030年の諏訪」について寄稿してもらいました。

## 諏訪医療圏スマート化計画 プロローグ“歯科の逆襲”

高輪歯科 院長 加藤正治 (86回生)

AI搭載デバイスが口の中に入っていく。ドクターが見落としした小さな虫歯も瞬時に検出。歯を作りたければ世界標準フォーマットで3Dスキャンして専用クラウドへ。数時間後、CAD/CAMが自分だけの歯を作ってくれる。取得データはすべて生涯の健康記録として予防歯科に活用される。私は現在こんなデジタルな仕事に携わっている。

いまや世界はスマートヘルスケア、すなわちテクノロジーの進歩により可能とされる医療・健康サービスを提供するための手法を探し求めている。たとえば医療サービスを提供する現場は多様化し、これまでの病院中心から遠く離れた受診者にも対応する必要性が増している。しかし我が国では医療情報は様々なスタイルで個々の機関で管理されているのが現状である。限られた人材と財源で猛烈に忙しく働いているが、決して「スマート」とは言いがたい。そこには医療情報の完全な電子化と個人が生涯にわたる健康データを活用できるようにするPHR(Personal Health Record)の推進が必須であり、AI医療や遠隔診療、遠隔処方

の発展はその進展にかかっている。

さて、諏訪医療圏に目を向けると、人口問題に言及するまでもなく、高齢化率はすでに30%を超え全国平均の10年先を進んでいる。今後2030年まで訪問診療による在宅医療の需要は伸び続ける結果も示されている。幸い諏訪医療圏の単位人口あたりの在宅療養支援医療機関は全国平均の1.6倍、介護関連施設はおおむね全国平均よりも多く、医療の現場として在宅や施設の割合が伸びていくことが予想される。ICT(情報通信技術)を操れる医療福祉のマンパワーが必要だ。諏訪市が数年前に行った高校生へのアンケートでは、将来なりたい職業第1位は「医療・福祉・調剤」が15.5%と最も多く、全国の高校生と動向が異なる点が面白い。

最近、厚生労働省は、超高齢社会を乗り切る為、2040年までに健康寿命を3年以上延伸することを打ち出した。健康寿命の延伸には予防医学が強く関わってくる。歯科の役目も全身の血管を守ることへと変わるはずだ。特に予防歯科は全身の健康に大きく貢献する様々なエビデンスが認められており、AI医療や遠隔診療との相性も良い。もはや諏訪の医療問題を諏訪だけで考える時代ではないであろう。健康で諏訪人らしいアナログな生活を楽しむために、スマートヘルスケア先進医療圏のモデルケースを目指してみ

てはいかがだろうか。

## 私の場所から見える 2030年の諏訪

決済会社役員 林一浩 (86回生)

令和の発表の直後、新しいお札のデザインが発表された。その目的の一つは、43兆円ともいわれるタンス預金を市場に引き出すことと言われている。その一方で、昨年突然政府がキャッシュレスを騒ぎ出し、この消費税増税に合わせて、一大キャンペーンを実施すると言っている。世界的には、お隣韓国や、スウェーデンなど、政府の強力な施策によって急速にキャッシュレスが進んでいる国や、中国のようにスマホ普及に合わせて、一夜にしてキャッシュレスが進んだ国などもある。しかし、その一方で、その流れに乗れない地方が、都会との格差に困惑しているケースもある。

決済は、生活の基本であり、お金は我々と切っても切れない大事なものである。歴史的にはその変化は非常に緩慢で、今我々が経験しているような急速で大きな変化はほぼなかったといえる。この大きな波が諏訪を大きく変えていくに違いない。

## 諏訪の酒、真澄です。

- 上質な真澄を最適な状態でお客様へ
- 真澄でお客様の食卓を和やかに
- 諏訪の街を元気にする酒蔵へ
- 日本酒を世界酒へ

七号酵母の個性が光る食中酒造りに取り組んでいます。

[www.masumi.co.jp](http://www.masumi.co.jp)

真澄  
MASUMI

七号酵母誕生の酒蔵

宮坂醸造株式会社

〒392-8686 長野県諏訪市元町1-16  
TEL.0266-52-6161 FAX.0266-53-4477

# 諏訪清陵高校同窓会総会ご報告

(6月29日:於ホテル紅や)

今年度は、令和最初の総会ということ、当番幹事86回生同期は何か少しでも新しいことをやろうと、一昨年度から諏訪、東京で何度も話し合いをしてきました。たどり着いたのが「清陵同窓会の魅力の本質はなんだろう」という問いです。

## 追悼

生越万理子(66回生)

## 淵上良子さん (56回生)

淵上さんは平成30年5月6日に脳腫瘍のためご逝去されました。

東京清陵会の女性副会長として1996年10月25日に就任され2000年10月まで副会長を務められました。

それ以前は女性の役員席はなかったのですが1994年女性の副会長を設けるという条項が幹事会の審議を経て加わりました。

初代の副会長で戸惑いもありでしたが、東京清陵会総会に女性の会員への呼び掛け、「東京清陵会だより」の紙面に女性会員の動向等を載せて頂くために、私も末席にてお手伝いさせて頂きました。淵上副会長は極端に目立つことはせず堅実にご努力されその重責を果たされておりました。その経緯を目の当たりにし、お手本として学ばせて頂いた事を光栄に思っています。

穏やかなお人柄とその功績を称え、心よりご冥福をお祈りいたします。

日経ビジネス2019年2月18日号で「同窓会行かない症候群 原因は『昭和の働き方』の破綻」という記事が出ています。記事の詳細はここでは触れませんが、戦後の経済右肩上がりのパラダイムが完全に過去の物になる中、同窓会も「今本当に必要とされているのか」という問いに答えられなければ、存在すら危うくなります。一方で、世界の多くのイノベーションが、欧米中心の大学の同窓生ネットワークによって起こされていることも事実。私たちは、今回同窓会を「青臭く」「多様性」を発見する場と再定義してみようと考えました。

やったこと自体はシンプルで、最終的に「清陵カフェ」と名付けられました。代表の方々が話すことを聞くだけでなく、キーノートスピーカーの話聞いた上で、参加者全員が少人数グループでワイワイ話しあってみようじゃないか、というものです。テーマは「2030年の諏訪/約10年後の諏訪の未来」。ランダムに席についた同窓生同士6~7人でテーマについて話し合っていた、という形をとりました。

もともとこうした「インタラクティブ」なやり方になったきっかけは、2017年に東京清陵会のミドル交流会で、今回も86回生のリーダーとして活動してくれている細田明さん、武田正利さんが中心となり「諏訪の未来」を少人数グループで語り合うイベントを行ったところ、思いの外楽しく、クリエイティブな場となったためです。その時に、清陵同窓生の人としてのレベルの高さと「話し合うのが

好きそう」な雰囲気を感じた次第です。

当初諏訪で幹事会の先輩の皆さんに「インタラクティブ」なイベントをやりたい、と提案した際には「好きなようにやったらいい!」と応援をもらう一方、「これで人が集まるのか?」と心配いただく声もありました。今までと違う形への挑戦でしたのでご心配も無理ないと思いつつ、内心は自分たちにも不安はありました。

当日まで、できる限りの準備をしながら期待と不安の中のイベントでしたが、結果は4人のキーノートスピーカーの真摯な話に触発され、20分弱ではありましたが、見知らぬ同窓生同士が熱をもって諏訪の未来について話し合う「カフェ」の場が実現しました。参加された多くのみなさんから「楽しかった」「よかったよ」と声を掛けられ、挑戦してよかったと心より思いました。参加いただいた全ての方に感謝です。

東京清陵会でも改善すべきところは改善し、再度同じ「2030年の諏訪」というテーマで「清陵カフェ」を試みたいと思います。うまく行くかはやってみなければわかりませんが、トライアルと捉えていただき、同窓会活動がより自由闊達でフラット、イノベティブなものになっていく一つのきっかけになれば幸甚です。

私自身、スピーカーの話やお互いの会話の中から「2030年の諏訪をデザインする」ヒントを見つけることができました。「多様性」と「対話」から新しい関係と発想が生まれる。皆さんにとってもそんな楽しい場になればと願っております。

林 聡一 (86回生)

同窓生の皆様のご健康とご多幸をお祈りします



## 高田整形外科

整形外科 スポーツ整形外科 手外科

医療法人社団 慶康会 理事長 高田直樹 (86回生)

〒154-0023 東京都世田谷区若林4-31-4 葛城ビル2階

TEL 03-5779-6322

<http://www.takada-seikei.com>



# ミドル交流会スピーカーの 考える未来

2019年3月10日に開催された、東京清陵会ミドル交流会のスピーカー3名の考える未来について、寄稿していただきました。

## スーパーインクジェットが もたらすモノ作りの未来

株式会社SIJテクノロジー代表取締役社長  
村田和広 (87回生)

東北大学で材料工学を学び、国立研究所である電子技術総合研究所、ケンブリッジ大学キャベンディッシュ研究所を経て、産業技術総合研究所で、ナノテクノロジーやフレキシブルエレクトロニクスの研究を行い、その過程で生まれた技術を基に2005年にベンチャーを起業し、ものづくりの変革、技術活用を目指しています。私が開発した技術は、家庭用インクジェットの1/1000以下の超微細な液滴形成技術(スーパーインクジェット:SIJ)で、これを用いて様々な材料をサブミクロンでパターンングすることを可能にする技術です。私が開発し、事業化している技術を活用すれば、大きな工場や、クリーンルームなど、数億円もする装置を利用しなくては、作成できなかったようなものが、机の上に乗るような装置で作成できる可能性があります。この装置に必要な電力は、家庭用の太陽電池パネルで十分に賄えるレベルです。日本には、規模こそ小さくても世界シェアの半数以上を抑えているような部品、素材などが少なくありません。それらを省エネ、省資源、オンデマンドの超小型製造装置により高付加価値製品に仕立て上げることができれば、中国をはじめとする大量生産型の対局の少量多品種高付加価値製品を即時に市場に投入できる可能性を持っており、今までは仕方なしに既製品を使わざるをえなかった人たちのニーズを呼び起こすかもしれません。従来常識で言えば、ハードをカスタマイズしても、ソフトウエア開発の労力を考えれば少量多品種戦略は効率が悪い手法だったかもしれませんが、AIやIOTなどを活用し、学習型、適応

型のソフト構成が可能になりつつある現在、ソフトとハードの同時進化をもたらす可能性を秘めており、日本型ものづくりの切り札になることを期待します。

## 未来を担う子どもたちを 社会全体で育む

(株)学研プロダクツサポート 取締役  
中村基孝 (87回生)

87回生の中村基孝と申します。大学卒業後、(株)リクルートを経て、現在は(株)学研ホールディングス傘下の子会社の経営に携わっています。社会人人生の30年間、採用、通販、旅行、婚礼、教育など様々な領域で新規事業を経験しましたが、その共通点は「不」の解消でした。それは、顧客が抱える「不安」「不便」「不〇」を新たなサービスによって解決していく挑戦です。

その根底にあった私の原動力、それは、我々清陵生のDNA『自反而縮雖千萬人吾往矣』に尽きます。「顧客のインサイト(潜在ニーズ)」を自問自答し、多勢の反対意見にも耳を傾け、「世のため、人のために、私は進む!」覚悟が新価値創造には必要です。

今、現代社会が抱える最大の「不」は「教育」だと感じています。これは、受験・偏差値的な狭義の教育ではなく、真にサステナブルな社会を実現していくために、次世代を担う若者の“生き抜くチカラ”を育む“人間力”育成です。AIがいくら進化しても、最後は“人”。自然豊かな諏訪地方には、実は次世代育成に最適な教育的資産が山ほど眠っています。冬の寒さ、農業、自然体験……これらを教育コンテンツとして磨きあげていくことが、新たな時代に求められていると確信しています。

## 決意表明(^^)/

パウハウスSUWA代表、  
有限会社スペースイン 代表取締役  
宮坂佐知子 (87回生)

感覚的に実年齢の認識が無いまま54歳になった自分は、まだ、やりたいと思ったことには、躊躇なく石橋をたたき前に渡ろうとします。多分、根底にあるのは「自反而縮、雖千萬人吾往矣」かもしれません。

清陵に入学し、悪い人が許せず検察官になろうと思っていたのが、コーヒ一杯の勧誘で美術部に入り、アートに魅了されたのが、今、建築デザインの仕事をしているきっかけのようなもの。人生の岐路は沢山ありましたが、その都度選んできた道が正解だと思っている自分は、幸せだと思います。

30歳を過ぎ独立し今の仕事が始動し、40歳を過ぎた頃、ひょんなことからカザフスタン共和国で仕事をする事になり、初めて海外でのビジネスを経験しました。そこで日本人として高度成長期を牽引してきた先人の凄さを感じました。建築という分野は、人間が中心になり、自然、文化、歴史、経済・等が複雑に絡み合って成り立っています。今、自分なりにまちづくりに取り組んでいます。

今の日本を築いてきてくれた先人に恥じないよう、いつも理想を追いかけながら、この諏訪の地から、世界に発信できるソースを生み出していきたくと思っています。

まだまだがんばれそう! だから今日も頑張ります!

寄稿

# 我々の原点 諏訪の魅力 / 諏訪の未来

## フォッサマグナと 中央構造線の交わる地で

STUDIO 407 レコーディング・  
エンジニア 酒井崇裕 (86回生)

諏訪を離れて暮らすようになって36年以上を超えようとする。潮の香りを運ぶ爽やかな海風吹く横浜も気に入っているが、永い年月を経てもなお、自分はやはり諏訪人なののだと思いがあ

る。諏訪は地方都市の中でも文化的に洗練された土地柄であると思うが、私が清陵で過ごした頃は、やはり首都圏とは情報格差があり、ちょっと深堀りしたい関心事があっても、書籍やレコード、映画などの文化的なものに辿りつくにはそれなりの時間と労力が必要で、そうした状況が私をして一刻も早く東京に出なくてはならぬとの思いを募らせていた。身体に纏わりつくような田舎独特の雰囲気も若い私には居た堪れない感じと焦燥感を掻き立てたものだった。

この歳になり、遠く離れた地から見る諏訪は若い頃とは違って見える。客観的になれるというのもあるが、大都市に住まう人々とは異質な気質というか、人としての在り方、立ち位置の取り方が違うことに気づく。

昔の記憶を紐解けば、親類縁者の集まりなどで酒を酌み交わしながら話す会話には、切れ味鋭い鮮やかな知恵や、いったい何処で仕入れたのかと瞠目するよう

な深い知識が散りばめられていた。市井の教養人とでも言おうか、そうした密度の濃い人々がここかしこに暮らしているのが諏訪なのだと思う。山に囲まれた盆地という土地柄も、人と話すことを唯一の楽しみとし、頑固で己の世界を純化させることのみを関心事として生活を営む気質を育ててきたと言ったら言い過ぎであろうか。

擲揄のニュアンスを感じた方がいたら誤解を解いておかねばなるまい。むしろそれは諏訪人の強みでありユニークな気質である。故に先端技術を育み、精密機械の産業が興り、諏訪生まれの文化が花開いたのだろう。

前置きが長すぎた。頂いたお題「2030年の諏訪の未来を考えよう」である。2020年オリンピックを経て10年となる年。前回の1964年東京オリンピックでは、これをきっかけとし、日本は高度成長期を本格化していった。それは、テレビ、洗濯機、冷蔵庫の三種の神器に象徴される工業化の進展であり、人々の生活の豊かさを実現していく期間であった。物質文明の進展と言い換えてもよいであろう。

2030年の豊かさとは何であろう。物質的な豊かさでないことは誰もが感じている。ここにこそ諏訪人のユニークネスを発揮する場があると考え。工業化の一翼を担ったと同じように、来るべき2030年を切り拓くパワーが諏訪には胎動しているはずである。7年に一度の奇祭のように、マグマが噴き出するようなエネルギー

の爆発が果たせるはず。あの唯一無二のユニークさと結束力。諏訪人にはそのポテンシャルが確実にある。

課題と言えば「ずくなし」の眠れる人財をたたき起こすことができるかどうか。私が考える2030年の諏訪の未来は人財の問題に集約されるように思う。

ナウマン博士いわく「フォッサマグナに比較できるようなものは、世界中、他のどこにも例がない」そうだ。私にはこの土地で育まれた諏訪人氣質と重なって見える。

## 人の優しさ、温もりを ロボットがサポートする未来

株式会社スナーク 取締役  
降幡浩康 (86回生)

諏訪に帰省して思うのは、人の温かさ、優しさである。横断歩道で待っていると、車は必ず止まり譲ってくれる。ただそれだけの事ではあるが、心がじんわりする。諏訪の時の流れは、ゆったりとした速さでとても心地よい。

今の時代、技術の進歩はマウスイヤーと言われている。この急激な技術の進歩は、私たちに何をもたらすのか。技術の進歩は必要だが、高齢化をむかえるこれからの社会には、一周遅れの技術であってもよいのではないだろうか。

人は生まれながらにして刺激を求めているといわれている。刺激は食物と同じ



Takanawa Dent.

高輪 歯科

03-3443-9900

東京都港区高輪2-16-53 伊皿子二番館3F

院長 加藤 正治 (86回生)

あなたの血管 守りたい...

www.takanawadent.com



ように、生きていくうえで必要不可欠なものである。ロボットが人に代わって何でもやってしまう世の中になれば、人は刺激を奪われ、心の豊かさや活力を失ってしまう。

技術は人に代わるものではなくサポートすべきものである。これからの時代は、人をサポートし人の活力を維持するような技術が求められる。

諏訪には心のやさしさと、ものづくりの精神がある。2030年の諏訪は、美しい自然を生かし、人の温かさ、優しさや技術力により、人を活かすロボットを生み出し、そして人々はロボットと共存しお互い助け合って、心豊かな生活を送っているだろう。

## 未来は「どうしたいか」から始まる

新聞記者 小松夏樹 (86回生)

ここ2年ほど、あらかじめ元号が変わることが判明していたため、これを奇貨として「次の時代」について様々な人に聞いてみる、という企画や取材を担当していた。もちろん元号が変わっていきなり時代が変わることはないし、歴史学者は明治、昭和など元号で時代を区切るのを嫌う。だが、不思議に平成の始まりは冷戦の終わりであり、バブルの終焉であり、情報通信機器の爆発的な普及と進歩の時代でもあり、戦争はないが、災害の時代であって、何らかの区切りとなっていることは共通した認識だった。

では次はどんな時代かと聞くと、分かっているのは少子高齢化と人口減少が極端に進むということくらいで、人工知能(AI)をはじめとする技術革新がどう進む

か分からず、どんな時代になるかは、何をやるか、どんな革新が起きるかによる、という人が多かった。

まずは、分かっていること、2030年の人口と年齢構成、その分布というところから始めるべきだろう。手元に正確な統計はないが、諏訪とか岡谷とか茅野とか、という地域全体でならせば、著しい少子高齢化は避けようがない。日本全体として見ても、人的資源は厳しく、人が大事な介護関連の分野はやっていけないかも知れない

体験的なものだが、諏訪地方の介護、高齢者医療、見守り分野はとても優れていると思う。老親1人を、介護の専門家からコンビニの店員さんまで、毎日だれかが気にかけてくれている。遠くの息子など不要である。東京近郊での施設暮らしなどより、自宅で終われそうだと、とても人間らしい生活ができています。この美点はなんとか持続したい。持続すると、それが「売り」にもなる。地域の私たちの総意としてそうしたい、ということであれば、ほかを犠牲にしても、限りある資源を集中すべきだ。清陵の卒業生をただで医学部に入れて在宅医になってもらう、というのはどうか。大学までの子育て・教育費用を全部無償にしてもいい。人手(ロボット手?)も十分供給される。それも自治体の「売り」になる。圧倒的な利点があれば、人口増まで見込める。もちろんこれらは政治的イシューであって、この部分、地元(良質な意味で)利益誘導するのだ、ということを含む政治については、諏訪は弱い。主権者が願いを叶えるならどういうことをすべきで代表制では何が大事か、という点で政治はもう少し尊重されている。

さて、以下はいかにともトーキョーから

の視点だが、諏訪は諏訪湖と御柱とNHKによる朝の風景の中継のためか、全国的になんとなく有名である。諏訪湖と御柱を含んだ「最後まで縄文」というリソースは魅力的だ。高度成長期以降の諏訪湖の環境はひどいもので、私はウツカが壁一面にびっしり張り付いた校舎に

## 10年後の諏訪の小学生だったらという視点での寄稿です。

『10年後のすわ』

よしえのぶお (86回生)

ぼくはこのしがつせいりょう小学校に入りました。諏訪こを初めて見た時は海かと思いました。冬にはスキーができる車山もあるそうです。温泉もあるので寒くても平気です。あとは御柱というお祭りがあって大勢の人が見物に来ると先生が教えてくれました。

今朝ぼくは駅から学校までの道で迷っていると知らない人が親切に教えてくれました。挨拶もしてくれました。これからとても楽しみです。でも心配なことがあります。それは勉強が大変になる事です。友達は塾に行くそうですが、うちはお金がないのでいけません。まだ心配なことがあります。それは家にはおじいちゃんとおばあちゃんがいるのですが、おじいちゃんはこの前転んで足が痛くなって車椅子を使うようになりました。おばあちゃんは一人で勝手に散歩に行ってしまう。お母さんは、はいかいて言うんだよと教えてくれました。出張で日本中飛び回っているお父さんは、日本中どこでもそうだよと言っていました。

貴方のビジネスの“C”の前に

Card and payment  
Communication  
CRM  
Community  
&  
Your Challenge!

**B-Office Ltd. JAPAN**  
日本支社代表 林 一浩(86回生)  
Http://www.b-office.jp




**FC FAIR CONSULTING GROUP**  
www.faircongrp.com

税理士法人フェアコンサルティンググループ  
代表 細田 明(86回生)



通った。だが、ここ30年余りの、県を含む地元の地道な浄化運動とその成果は、当地で考えられているより見事なものだったと思う。2030年までに、快適な湖水浴が可能な諏訪湖にする、というポジティブ目標もありではないか。浄化の反射の効果として、温暖化の中でもお神渡りが毎年望めるかも知れない。「最後まで縄文」というのは、弥生>縄文という構図が崩れたいま、歴史的にすごい事である。プラタモリの要素も加わって、キャッチーだ。この辺は、同級石埜氏の活躍に期待する。

## 諏訪の魅力を守り、生かした 日本一の地域共生社会を目指す

認知症地域支援推進員

若年性認知症コーディネーター

社会福祉士 杉本一美 (86回生)

名古屋から中央道を走り、岡谷JCTを過ぎる頃、八ヶ岳、蓼科山等々山々に囲まれた諏訪湖の風景が広がる。生まれた時から変わらない景色に「帰って来た」と心が落ち着く。

私は今、縁あって社会福祉士として認知症に関する名古屋市の中核機関で仕事をしている。団塊の世代が後期高齢者になる2025年には、全国で約700万人、高齢者の5人に1人が認知症になるといわれている。国は、高齢化社会の大きな課題として、認知症の人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けられる共生社会の実現を目指している。私は、2025年を見据え、認知症を切り口に、住民一人一人が認知症を自分事として考え、互いに理解し支え合う社会を目指し、認知症の正しい理解のための普及・啓発、それを担う人材育成など地道な活動をしている。

その視点で諏訪を考えみると、人と人のつながりや互いに助け、支え合う精神は、今も存在し続けているのではないかと。諏訪の人々は、誰もが本当に温かいから。なぜなら、昨年、実家に住む家族の事で、近所の方、友人始め、たくさんの方達に助け、支えてもらったから。諏訪そのものに、感謝の思いしかない。

2030年の諏訪、変わる事のない美しい風景と自然の中、愛すべき諏訪の地に住む一人一人が笑顔で暮らす地になっていて欲しい。そして、そんな諏訪に魅力を感じた人達が移り住み、活性化されたらいいなと願っている。

## 我らの原点、諏訪の地 清陵にあり

(株) インテージ

カスタムリサーチ事業本部

カスタムリサーチ事業企画室

デ・サインリサーチ推進担当マネージャー

鮎澤留美子 (89回生)

青山学院女子短期大学を卒業後、キンビール、日本航空、電通グループのリサーチ会社を経て、2014年より国内最大手のマーケティングリサーチ会社である(株) インテージに転職。現在、企業の新商品開発支援の仕事に携わっています。複数他業界を経験し、その知見を活かしながら、生活者起点で今までにはない発見を得るソリューションを開発、生活者

動向を洞察するコラムも担当。新たな発見とは「当たり前を問い直すこと」をコンセプトに、日々、業務を推進。

思えば、自分の行動指針の“はじまり”や原動力は、諏訪の地で過ごした清陵3年間にあります。日本有数の山脈に囲まれた自然豊かな地で、世界に誇る技術力も諏訪にあることを学び、当時10代の少女であった私にも誇りとなりました。清陵では自由闊達で質実剛健、「やるじゃ!」という勢い、清陵“魂”を体得しました。

今の日本は、様々なサービスや商品、ITの進化により、超便利な時代かもしれませんが。

それ故に、内なる魂や、自分の原点を内省する機会を逸しているかもしれません。迎える2030年、誰もが心の中に持つ“そもそもの私の魂と何か”、生きていく中で当たり前になってしまったことを揺さぶり、自分の原点を改めて問い直すことができたとしたら、きっと我々は、諏訪の地で過ごした清陵時代に想いを馳せるのではないのでしょうか。

## 2030年の諏訪というテーマで86回生に 無記名アンケートを行いました。

Tさんの回答

Q1.「2030年の諏訪の望ましい姿」とは？

2030年までに健康面で誇れる諏訪になって欲しいと願っています。健康寿命、有症率、血圧、骨密度、筋力、肺活量など、どんな指標でも良いので、健康面で1番となり、健康面で全国にアピールできればと思います。

Q2. そのために、自分がやりたいことは？

長野県で行っている、信州ACE(エース)プロジェクトと近いですが、健康維持のための運動、食事、特定健診受診などに関する様々なプロジェクトを作成し、2020年からの10年計画でプロジェクトを実行していければ良いな!と思います。

Q3. まとめ

「2030 健康都市宣言 諏訪!」 半分冗談交じりで書かせて頂きましたが、実現したら私ら医師は失業です。

Nさんの回答

Q1.「2030年の諏訪の望ましい姿」とは？

諏訪出身者の心の支えになっている。2030年頃には、臨場感通信により物理的な距離・場所の概念は大きく変わる。どこに住んでいるか、ではなく何に立脚しているか、が重要。日本の、世界の人に諏訪がどんなところか、が知れ渡っている。長野や諏訪は比較的知られた地域。でもちゃんと理解されているか、まずそこから脱却する。

Q2. そのために、自分がやりたいことは？

もっともっと諏訪を知り、自分の言葉で発信する。Q1と相反するけど、もっと地元に戻ってきて、見聞きする。→3年前に大学の友人と諏訪を旅した時に、自分がいかに諏訪のことを知らないか、を思い知った。

Q3. まとめ

諏訪を理解し、自分の言葉で発信する。



# 東京清陵会による母校生徒へ 継続サポート中

東京清陵会による母校生徒サポートは、2018年度は、附属中学東京研修旅行での職場見学受入は3年目、高校キャリア教育への講師派遣は2年目となり、定着して来ました。2019年度は、両イベントに加えて、清陵祭と本部総会での、同窓会、生徒活動の相互掲示など、更なる交流、サポート企画を進めていきます。

## 高校「キャリア教育」に 講師を派遣(2年目)

### <概要>

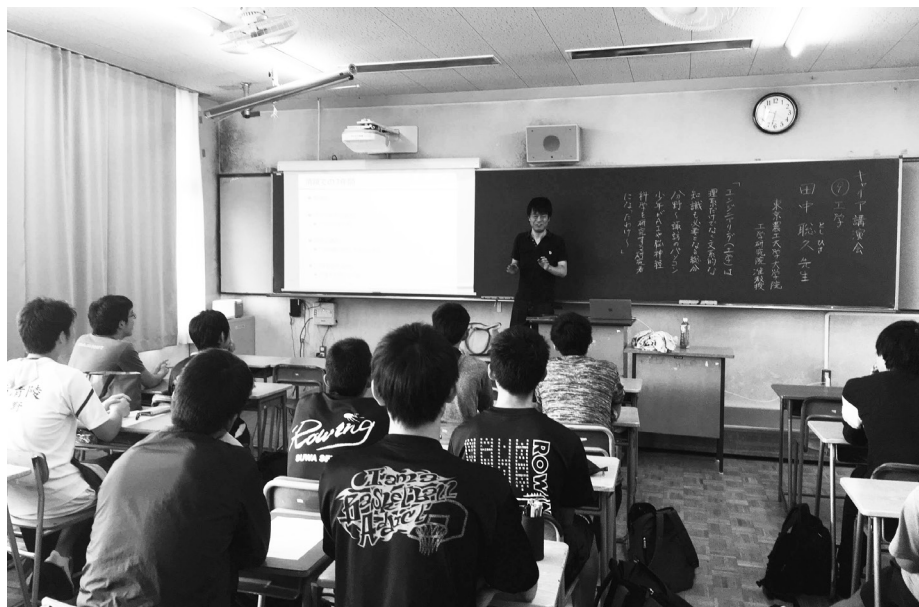
昨年度に引き続き、第2回諏訪清陵高校キャリア講演会が高校2年生を対象に平成30年9月8日(土)に行われました。

東京清陵会にご協力をいただき、各方面でご活躍されている清陵出身の同窓生10名を講師にお招きし、自己の高校時代や進路決定、現在の仕事内容、人生のターニングポイントなどについてご講演いただきました。講師の方からは、自己の専門分野に必要とされている人材、清陵生への期待やメッセージなどについて熱心にご講演いただき、経験豊かな先輩方の人生観・職業観に多くの生徒が刺激を受けた様子でした。

### <講師より>

2018年9月8日(土)、40年ぶりに訪れた母校校舎は、改築後既に30年近くを経たというものの当時を知る自分としては、とてもきれいで新鮮に映った。ぼろぼろの木造校舎で、掃除は油を染み込ませたモップで行い、当時「もし火事になったら、燃え方はすごいだろうなあ」と思っていたことを思い出す。

5年前には中学校も併設され、女子学生の数も圧倒的に増えたとのこと。自分の時代は1クラスに女子生徒は34人。学年合計で20~30人くらいだったのだろうか。その割に数少ない女子を大切にしていたかと言うと…。私のキャリア講座も2クラスともに女子の割合が8割。無印良品の顧客層(男女比)と一緒にだなぁと思いつつ、まずは無印良品について少しでも知ってもらえたら、という想いでブランド誕生の歴史から現在取り組んでいることの想いの丈を話した。残念ながら諏訪地区には無印良品は店舗を構えて



おらず、学生たちのMUJIとの接点はファミリーマートという学生がほとんどだったが、ポジティブに受け入れている学生が多かった(ように思う)。

自分の学生時代を振り返って話したことは、高校時代に将来のことなんてほとんど何も考えていなかったこと、大学を出るときは何となく海外で働きたいと商社ばかり受けて全滅したこと、でも結果としてロンドンにも駐在し、グローバルなビジネスを手掛けていること、「何かを変えたい」という強い想いがあればいくらかでもそのチャンスはあるということ。それと清陵高校時代のネットワークは(同期だけでなく、先輩も後輩も)大したもので、自分が今の会社に勤めるきっかけは当時の良品計画の常務が清陵出身者(先輩)で誘ってくれたことを話し、みんなのこれからの人生にとって間違いなく貴重なネットワークになることも伝えた。高校生相手に無印良品の話をするのは初めてだったので、何かを感じてくれただろうか? 自信はない。

株式会社良品計画

執行役員 人事総務部長(兼)店舗監査

室、本部・グローバル監査室、法務部  
管掌 矢島 岐(81回生)

高校時代は、数学と化学が大好きで、問題集を解き、先生手作りの資料で学びました。理解できると興味は増し、知識欲は旺盛になりました。教養が吸収されていくことの体感、快感になり懐かしく思います。そのためか、未だに当時の教科書や資料を大切に保管しています。

講義では、日々の暮らしに役立つ製品を創る醍醐味を研究やマーケティング視点で、柔軟剤「ソフラン」を例にお話しました。また、認知科学と脳機能について、錯視画像、認知バイアス、行動経済学、ニューロマーケティングなどを例に、アドバイスしました。今後、壁にぶち当たった際には、“What is my challenge? The stage is ready. It’s up to me how I perform.”を考え、乗り越え、楽しい未来を自分で創って下さい。皆さんの真剣な聴講、ありがとうございました。ライオンハイジーン株式会社 取締役企画開発部長 宮坂広夫(82回生)

講義タイトルとは少し外れたことを話



してしまったのが反省点。もう少し、現代を覆っている「同調圧力」について触れるべきだったかも。ただ、「自分の頭で考え」、「本物に触れ」、「楽しみながら努力する」という清陵生ならば理解してくれるであろうことを話すことができてよかった。清陵出身者にとっては「今更」だろうが、世間一般ではそれが「当たり前」ではないので、今後それが重要となってくる、ということを重点的に話した。その点を生徒さんたちもきちんと理解してくださったようで、総じて反応は良好だった気がする。質問も思った以上に多く、こちらとしても嬉しかったし、本当に刺激になった。改めて清陵のレベルの高さを認識した。清陵の方々には、今後も、清陵生であることに誇りを持って、世間の雑音に負けず、自分のやり方で、

自分と大事な人々のために、自分だけの人生を生きてもらいたいなあ、と思った次第です。

物書き 三沢陽一 (102回生)

#### <生徒感想>

●今日の気づきから、自分の進路が前よりも定まった気がする。今後活かしていけたらいいと思う。

●興味深い話をたくさん聞くことができ、良かった。これからの自分の進路について、より深く考えられる良いきっかけとなりました。

●今は目的もなく勉強してなかなか成績が上がらなかったけど、今回の講演会をきいて、まじめに勉強しようと思った。

●二つの講座で共通して、時代は変化しているから、自分で考え、自立していくことが大切だとわかった。

●自分たちの先輩で大きな舞台で活躍している方々のお話を聞いたのはとても良い機会であった。昔の清陵高校の話などしてもらったりして、変わらないところもあれば今とは違うところもあるのだと感じた。どのような分野においても、論理的な思考力とコミュニケーション能

力は必須であると思った。

●どちらの講師の方も、自分の仕事を誇りに思っていました。しかし、そこにたどり着くまでには多くの苦労があることがわかりました。僕は今、その苦しい時期にいますので、ここをしっかりと乗り越えて、一人前の人間になれるように努力していきたいです。

#### <総括>

同窓生の豊かなご経験から語られる「生きた言葉」の数々に、多くの生徒が引き込まれ、大いに刺激を受けた様子でした。聴講後の生徒からは、自己の進路やキャリアについて考えを深めたという声が多く寄せられました。日々めまぐるしく変化を遂げる現代社会の中にあつて、社会とつながる学びの機会を生徒に提供することはきわめて重要だと考えています。そうした「本物」に触れる機会を、同窓生との対面の関わりを通して行うことができるこのような取り組みを今後も継続して行っていければと思います。今後もさらに多くの皆様のご協力をいただきますよう、よろしくお願いたします。

(高校教員 城取恭子)

## 附属中学「東京研修旅行」での職場見学受け入れ(3年目)

### <概要>

諏訪清陵高等学校附属中学校も今年度で開校して5年、3年生の関東方面への研修旅行も3回目となりました。この研修旅行では、自分の将来像や学習展望を意識化するため、大学・研究機関・企業等を訪れ、最先端の学問や研究、異文化に触れてくることを目的として行っています。中でも、清陵OB・OGの皆様が働いている企業へ訪問・見学させていただく時間は、生徒にとってかけがえのない刺激・経験となっています。

### <見学先担当者より>

横浜市にある当社の鶴見工場にて、シーールドマシン、水道用鋼管、発電用タービン、船用エンジンなどの製作現場を見学



の後、(株)Jバイオフードリサイクルにて試運転中の食品廃棄物を用いたバイオガス発電プラントを見学させていただきました。昨年は参加者が全員男子でしたが、今年は参加8名中女子が6名という情報

を事前に頂いていたので、見学後の昼食に入社3年目の女性社員(営業・技術各1名)に同席を依頼し、自分の学生時代の事や生徒へのアドバイスなどを話す場を設けました。今年は見学そのものより





も実際に企業で働いている社員の考えや感覚を生徒さんに伝えられるよう配慮したためか(あるいは女子生徒が多かったためか)、昨年に増して積極的な質問が数多くなされたように感じました。対応した社員側も純朴な生徒を前に、喜々として回答してくれ、有意義かつ楽しい時間を過ごすことができました。

当社を訪問して下さった生徒さん、有難うございました。

上諏訪出身・JFEエンジニアリング(株)環境本部 アクア事業部長

今井俊雄 (82回生)

電通にての企業見学は2回目となりましたが、今年は2部構成とし、前半の15時間は、電通の会社紹介や、「広告とは何か」、「広告ビジネス」についてレクチャーを行いました。その中で、広告は単なる宣伝ではなく、課題解決であるという説明は学生の皆さんにとって意外だったようですが、最後はその真意を理解していただけたようです。また、レクチャーでは電通も参加している諏訪観光連盟の「『諏訪の国』プロジェクト」についても説明しました。学生さんには彼らの地元である諏訪地方や郷土愛について改めて考えていただく機会となったようで嬉しく思いました。

後半は隣接している「アドミュージアム東京」の見学ツアーにご参加いただきました。開館15周年となる2017年に全館リニューアルされたばかりのアドミュージアムでは広告の歴史を学ぶことができます。ツアーでは学芸員から展示の内容や広告のデジタルアーカイブについて解説いただきましたが、皆さんは興味津々で展示に見入ったり、デジタルパネルを操作している様子でした。

今回の企業見学では学生さんからの質

問コーナーもあり、広告やデザインについて私も圧倒されるようなかなり突っ込んだ質問をいただくなど、大変頼もしく、また充実した時間となりました。今回の経験が彼らの将来の進路や生き方に少しでも役に立つことがあれば幸いです。

株式会社電通 第6ビジネスプロデュース局 ビジネスプロデュース部 部長

金子武司 (89回生)

#### <生徒感想>

●今回の見学では、実際にシールド掘進機や鋼管ラインを見せていただき、私にとってははじめてのことばかりだったため、普段使っている高速道路などができる裏側には、このような機械をつくる皆様の活躍があることを知り、とても刺激になりました。また、「バイオマス発電」という、鉄鋼業とは違ったジャンルの開発も行われているのを見て、技術を他の分野にも生かしている点がすごいと思いました。あの工場の付近は、私が数分ただけでも、匂いの強さに耐えるのが大変でしたが、実際に働いている方が、そんなことはお構いなしで、仕事に熱中している姿にも驚きました。この工場見学の中で、実際に現場や会社内で活躍する女性の方にもお会いでき、多くのことを学ぶことができました。一見、男性のみが活躍しそうな現場で、女性も同じように仕事をして活躍していることに、同じ女性としてとても尊敬できました。これからも、今回の経験を生かし、広い視野をもって将来についてゆっくりと考えていきたいと思います。(野口蒼葉)

●私が先日の訪問の際にお話を聞いて心に残ったお言葉は「清陵生でいてよかった」という言葉です。私はこの言葉を聞いて、これからの生活で将来「清陵生でいてよかった」と思える行動をしていきたいと思いました。また「自反精神は大勢の中で自分の言いたいことをきちんと伝えられる精神であるから大切にす」というお言葉からも学ぶことができました。私は、大勢の雰囲気にもまれて、自分の言いたいことが言えないことがありましたが、これからは将来のことも考えて、自反精神を忘れずに生活していきたいです。(荻上直)



●私はタイヤについて今までよく知らなかったのですが、タイヤの内部がどのように構成されているのかを見ることができて、とても新鮮な驚きを感じました。また、ゴムの新しい活用方法、今実際に建物に使われている耐震構造、最新の技術による3Dなどでのデザインなど、私の知らないゴムの世界を生で体感することができ、とても面白かったです。貴重な体験でした。そして何よりも、「世界一」の企業で働かれている皆様の「働く」ことに関する声を聞き、その姿を見て深い敬意の念を抱きました。私も誇りをもって生きる大人になりたいと思いました。

(泉岡優歩)

●先日の企業見学で私は、仕事はチームであるということを感じました。防災に関わる業務を中心に見させていただきましたが、総合防災部を中心に、建設局や水道局といった他の部署も携わって、同じ「防災」に取り組んでいるということを学ぶことができました。一つの仕事をやるにも多くの人との協力が必要不可欠なのだと感じました。清陵の先輩・後輩というつながりで、今回お会いできたことを大変うれしく思います。人の生活を守るために、昼夜問わず活動していらっしゃる先輩の姿をみて、私も人のために活躍する人間になりたいと思いました。

(横山衆人)



## 2018年度 総会・懇親会の報告

# 東京清陵会 第52回総会・懇親会報告

2018年度、東京清陵会の第52回総会・懇親会はご存じのように本来の当番幹事学年である85回生（の代表）がどうしても幹事としての責務を果たせないとのことで、事務局を中心に企画・運営することとなりました。なんとか関係者の皆様方のご理解とご協力をいただき無事に終了できましたこと、紙面をお借りして、厚く御礼申し上げます。ここに簡単ではありますが、前年度のご報告をさせていただきます。

## 【総括】

上記のような状況で事務局では、同窓会の基本（何のための同窓会かという観点）に立ち戻り、同窓会の存在意義を改めて考える機会にしようという思いから、懇親会のテーマを「同窓会を『再考』する」としました。

当日は、まず初めに東京清陵会の現状を理解してもらうためにこれまでの様々な活動・取組みを画像や映像を使って紹介しました。その後、年代別（男女）3人の方に、パネリストとして、自分のキャリアとともに同窓会への関わりや思いを語ってもらうと共に、これからの同窓会のあり方への提言をしていただきました。

その後、パネリストを交えてミニ「談話会」形式で更に会場からの発言・意見を受けました。更に、懇親会の最後には初めての試みでしたが、「お楽しみ大抽選会」を行い、大いに賑わいました。

ここで、それぞれのパートを担当した皆さんからと85回生でありながら参加してくれたお二人の一言を紹介します。

岡本 徹（83回生）

## 【総合司会】

今年は従来と異なり、同窓会幹事を事務局が務めるという初めての経験になり、おかげさまでまだまだ歴の浅く、若輩者



平林会長の挨拶



恒例の鏡割り。左から平林会長、諏訪の小尾さん、最年長の小泉さん、最年少の平林さん、原新会長

の私が、佐藤先輩と共に司会をさせていただきました。これだけ多くの方を前に、また大先輩から現役の学生まで幅広い年齢層の方がいる中で、司会という大役を果たせたこと、大変勉強にもなり、感謝しております。

今回初の試みとなる、大抽選会では、多くの同窓生が景品を提供していただき、同窓生が今どんな仕事をしているのか？何に関わっているのかを知る機会にもなり、非常に有意義な企画だったかと思います。当初はかなり混乱もしましたが、結果的には、同窓会そのものの存在意義を考える良い機会となったこと、大勢の知恵を集結した結果、今までに無かった企画も実行することが出来たことなど、学びの多い同窓会だったと感じております。

荒木健太郎（99回生）

## 【85回生】

★私、清陵卒業後初めて同窓会に出席さ

せていただきました。そのきっかけとなりましたのは、同窓会の紹介で母校での講演の機会を与えていただいたことでした。仕事柄、科学の面白さを次世代の子供たちに伝えていくとの大切さを常々感じていましたので、そんな折に母校での講演のお話をいただき、同窓会の大切な役割の一つとして次世代への橋渡しもあるのだと認識を新たにしました。私と同じ思いの卒業生もいるかと思っています。そのような皆さんとのネットワークをつくりつつ、未来創造の場としての同窓会を作り上げていくことのお手伝いが出来れば幸いです。

小平秀一（85回生）

★昨年、東京に出てから「東京総会」、「働くことを考える会」など東京清陵会の活動に初めて参加させて頂きました。これらの活動に参加してまずビジュアルに飛び込んできたのが校是の「質実剛健」や「自反而縮 雖千萬人 吾往矣」でした。孟



子の銘文のほうは、校庭の石碑に刻まれてはいましたが、自分の心にはしっかり刻むことができなかつたようで社会に出てからはすっかり忘れておりました。一方でそれらの精神を遵守して事にあたり、各界で活躍されている方々がおられることを知るに至り、大変誇らしく感じた次第です。

また、昨年の東京清陵会だよりを拝見して、卒業以来、音信不通であった先輩と連絡がとれ、上手い酒が飲めたのは何より嬉しいことでした。

ボクは高校時代からベクトルが海外に向いていて外の世界を見て回る仕事につきましたので、若い頃は諏訪に帰ることも少なく、清陵同窓会の活動に参加することもありませんでしたが、最近では啄木が詠んだごとく、ふるさとに八ヶ岳のような山があることがただただありがたく想えるような温故な年齢に至りました。そんな人生後半のタイミングに、清陵会を通じて故きを温ね思い出すことで、あらためて自分が豊かになれそうな予感があります。 伊東和男 (85回生)

### 【パネル・ミニ談論会】

パネルディスカッションでは59回の大先輩女性金子さんから89回中堅世代実業家の関さんまで4名の方をパネリストに迎え、清陵時代のご自分への影響、同窓会についての思い、東京清陵会の未来への提言等をお話し頂きました。68回春山さんは伊藤長七氏語りを貫徹され、71回伊藤さんからはストレートで忌憚のないご意見を頂きました。

歓談を挟んで行ったミニ談論会では、パネルディスカッションを受け、同窓会のあり方について先輩から若手まで想定を超える多くの方々から、耳を傾けるべ



パネルディスカッションでの4名のパネリストの皆様

き貴重な意見を頂き、時間を名残り惜しみつつ企画を終えました。

森 政弘 (83回生)

### 【お楽しみ抽選会】

初めての試みである抽選会は、会員の皆様からの提供品で実施をする形で行いました。提供品は22名様より約80点という、予想以上の数と豪華賞品となり、当日の懇親会に華をそえていただきました。最後の東京清陵会からの商品券の抽選では、当選番号が呼ばれると大きな歓声が上がりに大いに盛り上がりました。

事務局として、企画・司会を担当させていただきましたが、皆様のご協力により、楽しい懇親会を催すことができました。ことを感謝いたします。

佐藤美智子 (88回生)

※協賛いただきました皆様のお名前は以下の通りです。ご協力有難うございました!! (順不同・敬称略)

(株)ファンゴー 関 俊一郎 (89回生)

真澄蔵元 宮坂醸造株式会社 宮坂直孝 (77回生)・勝彦 (107回生)

(株)豊島屋 (神渡) 宮坂裕之 (82回生)

(株)山梨銘醸 (七賢) 北原幹雄 (52回生)

(株)開拓使 北澤秀彦 (99回生)

双日 (株) 原大 (73回生)

(株)ブリヂストン 原 秀男 (73回生)

西尾泰子 (99回生)

(株)BEPPIN マルシェ 佐藤美智子 (88回生)

(株)光村印刷 両角はるか (89回生)

デンマーク大使館 山本留美 (81回生)

(株)ソエル 小林盛男 (68回生)

窪田 びん (73回生)

マディーン啓子 (73回生)

Campaign House 後調正則 (76回生)

高輪歯科 加藤正治 (86回生)

岡本歯科医院 岡本 徹 (83回生)

藤森宏一 (63回生)

守矢早苗 (67回生)

(株)小田急リゾーツ 原 眞示 (81回生)

(株)良品計画 矢島 岐 (81回生)

生越万理子 (66回生)



#### けいの家 八王子本店

東京都八王子市明神町3-9-1 ☎042-649-1724  
月~金11:30~14:00, 17:00~23:00, 土17:00~23:00(定休日/日曜日)



#### けいの家 八王子みなみ野店

東京都八王子市兵衛1-1-10 ☎042-683-4987  
火~土11:30~14:00, 17:00~23:00, 日17:00~23:00  
(定休日/月曜日)



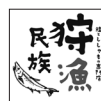
#### 龍神丸市場 八王子店

東京都八王子市旭町6-4 1F ☎042-649-7942  
月~金11:30~14:00, 17:00~23:00, 土17:00~23:00(定休日/日曜日)



#### 農耕民族 日野店

東京都日野市日野本町4-6-4  
17:00~24:00(定休日/日曜日)



#### 狩漁民族 日野店

東京都日野市日野本町4-6-4  
17:00~24:00(定休日/日曜日)

株式会社 開拓使

代表取締役 北澤秀彦(99回生)

# 各種イベント、開催幹事方式に移行して、盛況に開催される

ここ数年、ワーキンググループでの様々な活動は、委員会の導入により、対象年齢層の開催幹事学年を願ひし、組織委員会がサポートする体制に移行しました。開催幹事学年は、有志の学年に願ひしています。ぜひ、積極的に担っていただき、もっと多くの皆さんに参加していただければと思います（組織委員会）。

## 第4回 働くことを考える若手の会



平成30年11月25日（日）18時より東京都南部労政会館第4会議室にて開催されました。当日は伊東和夫さん（85回生）JALダイナミックパッケージ事業部 JALPAK 海外業務部部長、吉中宏子さん（旧姓：天野・89回生）大和証券（株）プロダクト・ソリューション本部ローンビジネス部、荒木健太郎さん（99回生）ソニー生命保険（株）ライフプランナーにパネリストをお願いして、貴重な発表を行って頂きました。

以下、パネリストの感想を紹介します。  
●社会に出て早33年ですが、これから社会へ出ていく後輩の方に現在の仕事を選んだ経緯とか、働くことの意味について話してみても、ということで依頼を頂き、随分世の中が変わっているので参考になるかどうか分からないままにお引き受けしました。自分は高校/大学時代に、塩野七海、森本哲郎、司馬遼太郎などの書籍を読むうちに海外の歴史や国や遺跡、その国の人のことをもっと知りたいという願望が強くなり、そこから自分がやりたい仕事を見つけたなんてことを話させて頂きました。非常に簡単な言い方をすると当時の諏訪はまだまだ、海外はもちろん、東京についての情報、商品流通が少なく、まずは東京への憧れを頂いて東京へ出るのだけれども、いざ東京に来

てみると時代的にはアメリカのポップカルチャーやヨーロッパのブランドがどんどん入って来ていて海外への憧れというか過熱感を背景に、まだ見たことのない海外の国々への憧れや興味というのを強くもつに至り、就職を考えるタイミングで「仕事とはおもしろいものであるべきだ」とどこかで思っていたボクは、自分の興味の延長線で、「旅」を仕事にするのがいちばんてっとり早いのかなと、そういう非常にシンプルな動機で仕事を選んだことをお伝えしました。後輩の皆さんが仕事を選ぶきっかけは様々かと思いますが、ぜひいろいろな意味で接触する世界を広げて頂きたいと思います。

伊東和夫（85回生）

●「働くことを考える会」に参加させて頂き、ありがとうございます。自身で話す機会をいただき、改めて、仕事と向き合う事で、得るものが沢山あることを感じました。また、伊藤さん、荒木さん、それぞれの興味深いお話を聞くことができ、仕事の楽しさは、自分自身の喜びとなり、強みとなることを学んだ気がします。今や、時代の流れと共に、様々な分野での変化が見られますが、好きや

得意をキーワードに、チャレンジし続けることが、大切だと思いました。若い世代の方は少なかったですが、参加された方々のひたむきで、真っ直ぐに受け止める姿勢にも心を打たれ、頑張る意欲をいただきました。事務局の皆さま、ありがとうございました。吉中宏子（89回生）  
●今回は、光栄なことに、東京清陵会イベントでは2回目となる、スピーカーという立場で参加させていただきました。私の本業が生命保険のコンサルタントですので、生命保険の仕組みや知らないこと、恐ろしいこと、などを話そう、と思ったのですが、全ての世代の方に共通し、かつこれからの時代に必須となる「資産運用」の考え方をお話させていただきました。私自身も金融の世界に30代で入り、今41歳ですが、10代、20代の頃から知っておけば良かった、教えて欲しかった、という内容をお伝えさせていただきました。懇親会では、89回生の先輩方とも多めに盛り上がり、10学年違いの会を開催しようと意気投合しました。2019年中には、89・99・109・119といった形での同窓会も企画したいと考えております。  
荒木健太郎（99回生）

## 第6回ミドル交流会

平成31年3月10日（日）13：30より東京都南部労政会館第3会議室にて開催されました。

「イノベーションを起こす 自反而縮雖千萬人 吾往矣」をテーマとして、人生の原点ともいべき校是を共有した我々が社会の中でどのようにイノベーションに立ち向かってきたか、各人の経験や思いを共有し交流を深める場として企画しました。企画・運営は87回生で行いました。参加者は、50代前半（86～90回生）を中心とした27名でした。

第1部では、各方面で活躍する87回

生3名の講師からテーマに沿ったプレゼンテーションを行っていただきました。村田和広さん（(株)SIJテクノロジー代表取締役社長）からは、自ら産業技術総合研究所において開発した従来の1/1000





以下の液滴を吐出する革新的なインクジェット技術について解説していただきました。さらにこの技術をもとに産総研発のベンチャーを創業し、税金を使って研究する立場から、研究開発を行い納税する立場へ転換を果たした経験についてお話ししていただきました。

宮坂佐知子さん(旧姓:猪爪)((有)スペースイン代表取締役)からは、コーヒー1杯につられて美術部に入部したことからデザインの世界に入り、その経験を活かして住環境と建築物のトータルプロデュースを行う会社を諏訪で起業した経緯をお話ししていただきました。また、カザフスタンで和食レストランの建築に携わるなど活動範囲は海外まで広がりはじめ、諏訪と世界をつなぐことで新

たな可能性を追求する取り組みも紹介していただきました。

中村基孝さん((株)学研プロダクツサポート取締役)からは、自身が携わられた新規事業の企画や立ち上げについて豊富なエピソードを紹介していただきました。リクルート入社後から現在の学研で立ち上げた事業は、ベビー用品の通販、Web旅行会社、プライダル関連、教育関連事業など多分野に及び、事業化に際しては数多くの障壁を利用者の視点に立つことと「自反而縮雖千萬人吾往矣」の実践で乗り越えてきたという興味深い内容でした。

第2部では参加者全員が3グループに分かれてグループディスカッションを行いました。 矢崎晴俊(87回生)

まい泉のお弁当付き)。お芝居通で、今回の演目をセレクトしてくれた89回生大野美江さんが素晴らしい相関図を作ってくれて、16世紀のややこしい英国王朝の人間関係と演じる役者さんの名前もしっかり確認しながら見ることができました。演者の皆さんは、本当に歌が素晴らしく、舞台も衣装もきらびやかで気分がかなり高揚しました。

25分の休憩は、帝劇総支配人の宇田氏(実は88回生佐藤の大学時代の芝居仲間)を囲んでお弁当をいただき、帝劇の演目についての裏話やショービズ界の話ヒアリング。休憩をいれて3時間の長さを感じることなく楽しい時間を過ごしました。帰りはみんなでホテルラウンジにてノンアルコールで乾杯。日々の喧騒から少しだけ離れたうっとりした時間を過ごすことができました。

女子部メンバーは、ビジネスの分野だけでなく、趣味の様々な分野で造詣が深く、多くのメンバーの知見を集めるとさらに奥深い活動が期待できそうです。今後も多くの皆様に参加したくなるような企画を提案していきたいと考えます。

#### ★女子会ミーティング

5月11日、神保町のレンタルスペースにて、ケータリングによる飲食&フリートーク形式で参加者67回生~110回生10名にて開催。当日は少人数でしたが、始まった瞬間に弾丸トークが始まり、特に用意していた企画も関係なく話が尽きない状況でした。レンタルスペースを利用した開催は、周りを気にすることなくじっくりお話しができる点が良かったです。参加した皆様からは「ホームパーティのようがいいね」という感想でした。

事務局 佐藤美智子(88回生)

## 第6回新卒歓迎・学生交流会報告

平成30年6月3日「ビストロバーンヤード銀座」にて開催されました。

新大学2年生にあたる120回生が中心となって運営してくれました。120回生佐藤友哉さん、117回生平林美紗都さん、110回生立木壮樹さんにスピーカーをお願いしたあと、食事を楽しみながら懇親を図っています。以下、スピーカーと参加者の感想を紹介します!!

新卒歓迎会をはじめとした東京清陵会の企画は、普段の生活では出会うことのできない偉大な先輩方との繋がりをもたらしてくれます。様々な業界の第一線で活躍されている方々と直接お話しできる機会などなかなかないのではないかと思います。121回生も当会を利用し縁を広げていってほしいと思います。また幹事学年の諸先輩方には是非とも講演会というような形だけではなく気軽に参加でき、就職や進学などの真面目な話から今晚のオカズに至るまで気軽に話せる交流会のようなものも企画していただきたいです。

佐藤友哉(120回生)

今回東京清陵会に参加させていただいた121回生の今井裕二です。初めて参加させていただきました。先輩方の話はとても有意義で、面白く、今後の生活において参考になる話ばかりでした。「特に大学生のうちに沢山挑戦して失敗するべ



き」という話がとても身に染みました。今回参加した121回生は自分だけでした。今回はもっと多くの同期に声をかけ、より盛んな会にしたいです。

今井裕二(121回生)

## 東京清陵会女子会

一昨年11月、第1回目の女子部観劇会を行いました。女子会参加者より「みんなで観劇に行きたい」という要望に応えて実現した企画です。帝国劇場にてミュージカル「レディ・ベス」を観劇(しかも



同期会活動紹介 ~76回生(当番幹事から10年)~

清陵時代の自分と今

母校を卒業して45~6年、在校時代から何かと元気よかった76回生は、その後も個性的な人生をおくっていました。総会幹事を仰せつかった年からは月に一度、参加できる同期が(二金会で)集まる他、お盆の諏訪での合同同級会や新聞記事にもなった「大人の修学旅行」(深志との交流会や修学旅行が中止になった学年)、東京・関西のラグビー応援、パリで絵画を描いている同期の帰国絵画展など、何かがあると集まり親交を深めています。

平成から令和に元号が変わる歴史的な年、この機会を頂けたので、改めて同期に集まってもらい、それぞれの「今」を「人生」を語って貰いました。

Q:母校での勉強や体験は

その後の人生に活かしているのか?

(一財) エネルギー総合研究所 副参事 坂本茂樹

清陵に端艇部の同級生がいて(その影響もあり)、東大ボート部で4年間漕手を続け、今も毎週練習、世界マスターズなど海外の大会にも出場しています。

英語で「Active Vocabulary」のミニテストが毎日あり、お蔭で語学の基礎が出来た感じで、今は国際会議が多いのですが、とても応用がきき助かっています。

(合) メディカルサポート 代表社員 鈴木教之

中学からサッカーをやっている(当時サッカー部のある高校は珍しく)、調べたら清陵にサッカー部があったので受験しました。今もサッカーにのめり込んでいる、人生の半分はサッカーをやっています。プレーヤーから、今は審判と審判を育てる活動(審判インストラクター資格も取得)を本業以上に忙しくやっています。

山岳スキーヤー 小池一平

清陵でなくても高校生の年頃は「惑い・

混乱・悩み」の時期だと思います。清陵が私に「許してくれた」のは、「悩んでも、苦しくても、何でも許容して、思い切りやらせてくれたこと」が大きかった。随分「ゴタな事」をやりましたが(許容してもらった)。その清陵の包容力の大きさに感謝しています。そのあと色々な組織に接しましたが、あれほど許容力のある学校・組織はなく(今の高校にそのような許容力を求めるのは無理ですが)、苦しい時代に全てを許してくれた清陵に感謝しています。

(ここで誤解のないように)意識的に体育会系を集めたものではありませんが、たまたま私も端艇部でしたし、後述の金子博士も東大ボート部・現在とコックスで活躍しています。

興信工業(株) 専務取締役 田中修

清陵は学生時代(小学校から大学まで)の中で最も思い出が多い時代でした。それが今、「どのように活かされているか?」と言うと『墮落な人生』のせい、あまりありませんが「清陵」と言う言葉に敏感に反応する、これは私だけでなく、相当数の卒業生が「反応する」。先輩、後輩を問わず一つになれる、それが清陵の良いところだと思っています。年をとって、清陵で良かったとつくづく感じる、何十年経って再会しても心が通じる。こ

れが伝統か? は分かりませんが、良いことだと思います。

(公財) 第一三共生命科学研究振興財団 常任理事・薬学博士 金子次男

何せ清陵時代、朝は9時に登校、15時半に帰っていたので、一番在校時間の短い生徒だったのでは、好きな事だけやって、たまたま見つけた雑誌の『動物を使う心理学』が(始まったばかり)、その道具になる「薬」をやろうと薬学の世界に入り、脳の研究をずっとやってきました。清陵時代「ほっとしてもらえた」のが一番良かったと思っています。

帝京大学 戦略イノベーションセンター 教授・工学博士 田沼唯士

「あの時代」濃厚に過ごせたと、先生方が真剣に向き合ってくれました。そのあと大学から企業に行き、縁あって大学で教えています。印象的だったのは「うしまさ(牛山正雄先生)」その情熱たるや、今、大学生を前にして、あのような情熱があれば、もっと理解してもらえるのではと、やっと分かりました。もう一つは、当時研究生の方もいたんですね。普通の高校の枠で収まらない、授業以外の事でも楽しませてもらいましたし、その分、先生方は、本当に大変だったと思います。

後調正則(76回生)





## 清陵勉強会

今でも変わらないが、これまで多くの清陵同窓生が各方面で活躍し、いろいろなジャンルで研究、あるいは実務に優れた業績を上げている。しかしながら、このことを知る人はあまり多くなかった。

このことから1990年にそれぞれの人たちの挙げられた成果を披露してもらう場として清陵勉強会が始まった。現在も各方面で活躍している清陵OBの専門を生かしたテーマを選定した講演を行っている。

1990年の第1回から2018年までで173回、偶数月の第4火曜日に開催しているが、これまで1回も休むことなく継続している。2018年の勉強会は下表のとおりである。 有賀一温 (75回生)

168回 2月28日	大久保智弘	69回	小説家。「江戸時代諏訪武士の教養、諏訪藩用人塩原彦七蔵書をみる」
169回 4月24日	小平 秀一	85回	海洋研究開発機構地震津波海域観測研究開発センター一長。「深海調査で探る東北地方太平洋沖地震」
170回 6月26日	金子 忠昭	84回	関西学院大学理工学部先進エネルギーナノ工学科教授。「グリーン・イノベーション 次世代の電気自動車開発と日本の産業競争力」
171回 8月28日	守矢 早苗	67回	神長官守矢家第七十八代現頭主。「守矢信仰と諏訪大社」
172回 10月23日	北條 浩彦	84回	国立精神・神経医療研究センター神経研究所神経薬理研究部室長。「遺伝子を制御する小さな巨人 機能性RNAの利用による病気予防や治療」
173回 12月12日	寺島 亮三	57回	元岩波書店辞典部。「清陵と私 戦中・映画『少年期』・そして」

清陵勉強会はブログ(<http://seiryobenkyokai.blogspot.com>)、また東京清陵会ホームページ(<http://www.tokyoseiryokai.jp/>)で案内している。参加希望者はメールでseiryobenkyokai@gmail.comに申し込んでほしい。



守矢早苗さん(上)と寺島亮三さん

## 第2回伊藤長七研究フォーラムの開催

2回目となる『伊藤長七研究フォーラム』が「寒水・伊藤長七研究会」主催により、2019年3月16日東洋大学白山キャンパスで開かれた。「寒水・伊藤長七研究会」は小石川・清陵の卒業生有志で構成する伊藤長七研究会のことで、通称「寒水会」という。「寒水」は伊藤長七の“号”である。この研究会の発足は、2001(平成13)年、その年の当番幹事であった68回生が中心となって、「東京清陵会だより」12号に「伊藤長七の足跡を訪ねて」と題する特集記事を掲載したことに遡る。この探索によって、多くの卒業生には校歌の作詞者としてしか認識されていなかった伊藤長七の、斬新な教育理念を唱え、「府

立五中」の初代校長に抜擢されるなど、偉大な教育者の実像が浮かび上がってきた。以来、府立五中(のちの小石川高、現・小石川中等教育学校)の紫友同窓会と諏中・清陵同窓会の繋がりが出来た。2002(平成14)年には矢崎秀彦氏(35回)の「寒水 伊藤長七伝」が刊行された。2007(平成19)年、伊藤家に保管されていた大量の資料が長野県立歴史館に寄託されたことを記念して、第1回のフォーラムが千曲市の県立歴史館で開かれた。

「寒水会」はその後、「現代教育観」(明治45年刊)、「小諸を去る辞」(明治34年刊)、その他論文、書簡類の読み解きを進めて来た。東洋大学の「高大連携プログラム」のご協力を得て、また、2018(平成30)年は小石川校の創立100周年にあたりその記念行事の一環としても位置付けられて、第2回フォーラム開催の運びとなった。参加者は全体で200名弱、そのうち清陵関係者は50名ほどご来場いただいた。

今回のフォーラムでは、基調講演、パ

ネル討論などの他、伊藤ひろこさん(長七・孫=劇団民藝女優)の朗読、藤下隆水氏の琵琶歌・『嗚呼伊藤長七先生』演奏など多彩なプログラムが組まれた。小石川、清陵両校の校歌がともに伊藤長七作詞であることから、それぞれが校歌を披露交歓して幕を閉じた。

今回主催した「寒水会」の清陵側メンバーは、春山明哲(68回)、小林盛男(68回)、守矢早苗(67回)、米山勉男(63回)、小川勝嗣(59回)である。清陵同窓会本部ならびに東京清陵会のご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、今後は寒水会に多くの方、特に若い方の参加、応援を期待します。 小川勝嗣(59回生)



基調報告の春山明哲さん



パネル討論には守矢早苗さんが参加

# 会費ならびに賛助金納入ありがとうございました

## 2018年度会費納入者ご芳名(2018年4月1日~2019年5月31日までに入金があった方)(敬称略)

61回 有賀 嘉信	63回 浜 研二	65回 伊東 郁夫	68回 春山 明哲	71回 岩波 力	76回 花岡 博茂
61回 寺島 健司	63回 亙理 美代子	65回 河西 靖浩	68回 藤森 照信	71回 磯野 康子	76回 森田 益弘
61回 中村 隆一	63回 尾澤 弘久	65回 山岡 建夫	68回 小林 盛男	71回 森 さと子	76回 山本 哲也
61回 山本 裕一	63回 金井 英雄	65回 進藤 瑞穂	68回 飯田 薫	71回 森 史朗	76回 石井 和夫
61回 川村 昌平	63回 海野 肇	65回 浜 公雄	68回 小澤 俊康	72回 野口 俊樹	76回 田沼 唯士
61回 篠遠 哲夫	63回 倉本 實	65回 堀内 元雄	69回 藤森 光彦	72回 桑沢 元孝	77回 春日 敏彦
61回 佐伯 三朗	63回 清水 洋右	66回 花岡 忠良	69回 宮坂 秀一	72回 笠原 勇二	77回 田添 珠実
61回 名取 将	63回 樋口 信也	66回 丸茂 雅弘	69回 柳平 克利	72回 飯澤 文夫	77回 薩摩林 恭子
61回 宮坂 真也	63回 河合 信也	66回 生越 万理子	69回 吉川 仁	72回 林 健康	77回 小口 正行
61回 横川 紀夫	63回 宮坂 尚利	66回 河合 三彦	69回 浜 初美	72回 小口 邦雄	77回 水戸川 博明
61回 北原 隆	63回 山田 清重	66回 須田 宏規	69回 両角 高三	72回 市村 敏夫	77回 小林 良人
61回 藤澤 玄雄	63回 荒木 信行	66回 長田 敏行	69回 渡辺 泰弘	72回 小口 裕治	77回 塩原 俊行
61回 松澤 良治	63回 小口 明秀	66回 林 央	69回 米山 城治	73回 マディーン 啓子	77回 西村 いづみ
61回 堀内 洋治	63回 蜜澤 裕二	66回 降幡 賢一	69回 宮部 敏秀	73回 窪田 敏	77回 伊藤 潔
61回 山崎 宏三	63回 小松 廣茂	66回 樋口 宗司	69回 比田井 昌英	73回 原 秀男	77回 堀田 康之
61回 矢崎 豊晴	63回 中村 詔行	66回 金丸 敏夫	69回 武村 光男	73回 原 大	78回 石埜 穂高
61回 内藤 信明	63回 溝口 登	66回 矢島 弘子	69回 比田井 和子	73回 笠原 正英	78回 大杉 健
62回 秋田 英一	63回 米山 迪男	66回 笠原 昭重	69回 功力 正行	73回 熊谷 靖樹	78回 南保 勝美
62回 長田 宏子	63回 五味 正得	66回 徳永 忠次	69回 中村 正治	73回 小林 正和	78回 両角 寛文
62回 宮澤 生行	64回 酒井 捷夫	66回 原 昭治	69回 宮下 安彦	73回 増沢 充万喜	78回 東城 清秀
62回 松澤 洋充	64回 長島 潔	67回 豊島 伸一	69回 柳平 三雄	73回 山田 雄一	79回 高橋 則広
62回 牛山 保美	64回 平林 正稔	67回 落合 勝彦	69回 濱 照彦	74回 岩本 敏男	79回 八嶋 美保
62回 滝澤 文教	64回 横内 敏幸	67回 小平 攻	69回 川村 美枝子	74回 窪田 修	79回 飯田 良
62回 矢沢 征吾	64回 垣内 直	67回 横田 森太郎	69回 小林 正秀	74回 北原 嘉泰	79回 大平 晋子
62回 金子 浩之	64回 祖父江 宏三	67回 池上 志な子	69回 林 史章	74回 土屋 彰男	79回 五味 稔典
62回 上原 光典	64回 篠原 八耳	67回 平林 千義	70回 土橋 務	74回 白鳥 清	80回 宮坂 宜男
62回 河西 巳喜雄	64回 木川 史弘	67回 丸茂 義典	70回 平山 哲三	74回 五味 克成	80回 矢島 茂人(福太郎)
62回 小林 國利	64回 花岡 忠史	67回 宮坂 榮一	70回 石田 和夫	74回 金井 良一	80回 宇津木 マリ
62回 御子柴 義照	64回 金原 恵介	67回 土橋 修平	70回 清水 英俊	74回 松縄 茂	80回 飯田 譲治
62回 斎藤 信男	64回 五味 勝	67回 湯田 英人	70回 米澤 英樹	75回 伊東 晴俊	80回 花岡 友子
62回 小口 普臣	64回 仁科 真爾	67回 原 美津子	70回 小口 隆夫	75回 宮下 和彦	80回 米澤 あ子
62回 三好 武吉	64回 新村 恩	67回 藤井 光子	70回 竹村 善隆	75回 柳沢 治通	80回 藤森 正樹
62回 北澤 夏司	64回 武井 省吾	67回 名取 省三	70回 唐木 康正	75回 戸谷 水穂	81回 松原 雅子
62回 三澤 祥地	64回 川村 洋二	67回 守矢 早苗	70回 浜 敬三	75回 小平 聡	81回 中野 則雄
63回 有賀 朝彦	64回 井澤 正行	67回 細川 正行	70回 高岸 洋夫	75回 吉川 秀樹	81回 小口 久雄
63回 河西 武彦	65回 金子 充宏	67回 林 武昭	70回 藤森 行雄	75回 有賀 一温	81回 小口 朝彦
63回 齊藤 亨	65回 関 紀雄	67回 五味 卷二	70回 功力 明美	75回 伊藤 せい子	81回 山本 留美
63回 藤森 宏一	65回 松本 禎之	67回 三井 敏彦	70回 一瀬 益夫	76回 前島 秀戈	81回 梅垣 さと子
63回 松野 洋一	65回 春日 芳夫	68回 宮坂 静	70回 細川 芳雄	76回 関屋 孝行	81回 矢崎 理恵
63回 小口 哲二	65回 小松 功	68回 深澤 豊昭	71回 浜 研一	76回 北澤 道子	81回 矢島 岐
63回 両角 實	65回 松田 昌憲	68回 笠原 斉	71回 伊藤 洋一	76回 田中 修	82回 行田 泰明

### ■清陵祭と本部総会での活動の相互展示 ~2019年度 清陵祭への同窓会活動掲示~

今年には本部総会(6月29日・土曜日)と清陵祭(6月22日、23日・土・日曜日)の日程がズレたので、相互に活動を理解してもらおうべく、掲示をしました。

●清陵祭:6月22日、23日・土・日曜日に、教室に同窓会展示室を設け、本部・東京会報の拡大などを掲示し、本部事務局と87回生(翌年当番幹事学年)がアテンドし、生徒(同窓生)に同窓会活動を理解いただき、卒業後の各支部への参加を呼びかけました。

●本部総会:6月29日・土曜日、紅や、総会会場の隣室に、生徒の活動・作品(前週の清陵祭展示物など)を展示し、86回生(当番幹事学年)のアテンドで、来場した同窓生に、母校生徒の活動を理解いただきました。

### ■ホームページ再開のお知らせ

長らく停止していましたホームページを6月から新たに公開しました。まずは、東京清陵会に関する基本的な情報、総会案内や行事案内、開催報告を掲載しています。今後、同期会活動報告、職場や出身大学の清陵会情報、部活のOBOG会情報も掲載準備中です。ホームページ運営管理規程、掲載基準も定め、それに則った安定稼働を確認しつつ、会員の皆様のメディア登場、出版、展覧会演奏会情報、清陵同窓生紹介「こんな同窓生います」などのコーナーも、今秋には開設できたらと考えています。ホームページ上でご案内いたします。

また、ホームページ運営に協力(記事掲載)いただける方も募集しています。事務局まで、お問い合わせください。よろしくお願いいたします。

<http://www.tokyoseiryokai.jp/>



82回 篠原 誠一	83回 内川 昇	84回 赤羽 俊昭	85回 小平 秀一	88回 倉科 和則	92回 西村 和訓
82回 北原 譲	83回 永島 正己	84回 小海 健治	86回 谷 寿々子	88回 須藤 美香里	92回 高原 由紀子
82回 藤森 薫	83回 小平 俊史	84回 野村 典亨	86回 猪股 顕文	88回 佐藤 美智子	94回 原 豊
82回 河西 龍彦	83回 伏見 升成	84回 清水 信次	86回 波賀 かおり	88回 村山 光義	94回 小林 広治
82回 飯田 健二	83回 矢頭 峰夫	84回 眞田 明美	86回 加藤 正治	89回 佐藤 吉英	96回 熊谷 和則
82回 金子 勝彦	83回 中村 美穂	84回 藤森 弘	86回 青木 裕子	89回 矢頭 智夫	96回 濱 真由美
82回 竹内 雅彦	83回 森 政宏	84回 伊東 修一	86回 武田 正利	89回 大野 美江	99回 荒木 健太郎
83回 倉田 重子	83回 小松 裕	84回 大澤 洋一	86回 細田 明	89回 金子 哲哉	99回 北澤 秀彦
83回 中村 史枝	83回 宮内 政彦	84回 小口 和彦	87回 北沢 聖	89回 両角 はるか	100回 大曲 葉子
83回 岡本 徹	83回 藤森 寛行	84回 大和田 敏子	88回 藤森 裕基	90回 荒井 要	110回 勝 美穂
83回 松崎 任宏	84回 金子 裕幸	85回 伊東 和夫	88回 増澤 浩一	91回 池上 薫	

## 2018年度賛助金納入者ご芳名(2018年4月1日~2019年5月31日までに入金があった方)(敬称略)

38回 北原 文雄	58回 中澤 正衛	60回 福島 清	64回 仁科 眞爾	69回 比田井 昌英	77回 塩原 俊行
44回 小口 斌	58回 上條 衛	60回 金井 浩	64回 新村 恩	69回 武村 光男	77回 堀田 康之
46回 小泉 和明	58回 小林 秀文	60回 窪田 作栄	64回 武井 省吾	69回 比田井 和子	79回 八嶋 美保
48回 鈴木 敬	58回 鈴木 由美子	61回 有賀 嘉信	65回 金子 充宏	69回 功力 正行	79回 大平 晋子
48回 野口 勝郎	58回 堀田 裕人	61回 寺島 健司	65回 小松 功	69回 中村 正治	80回 矢島 茂人(福太郎)
48回 伊藤 恒好	58回 五味 英明	61回 中村 隆一	65回 河西 靖浩	70回 土橋 務	82回 行田 泰明
49回 会津 洋	58回 吉田 嵩	61回 川村 昌平	65回 堀内 元雄	70回 平山 哲三	82回 篠原 誠一
49回 代田 繁夫	58回 宮坂 健二	61回 篠遠 哲夫	66回 丸茂 雅弘	70回 藤森 行雄	82回 北原 譲
50回 寺島 敏郎	59回 小林 一美	61回 名取 将	66回 生越 万理子	70回 功力 明美	82回 飯田 健二
51回 横川 端	59回 城取 俊昭	61回 宮坂 真也	66回 河合 三彦	70回 一瀬 益夫	82回 金子 勝彦
51回 青木 茂人	59回 伊藤 忠三	61回 横川 紀夫	66回 長田 敏行	71回 伊藤 洋一	83回 中村 史枝
51回 橋渡 勇	59回 津金 勝巳	61回 藤澤 玄雄	66回 林 央	71回 磯野 康子	83回 岡本 徹
51回 岩波 裕治	59回 白倉 徹哉	61回 堀内 洋治	66回 樋口 宗司	72回 野口 俊樹	83回 松崎 任宏
52回 林 尚孝	59回 小川 勝嗣	62回 秋田 英一	66回 金丸 敏夫	72回 林 健康	83回 内川 昇
52回 笠原 邦三	59回 松澤 俊志	62回 長田 宏子	66回 矢島 弘子	72回 市村 敏夫	83回 伏見 升成
55回 太田 弘道	59回 藤沢 修三	62回 矢沢 征吾	67回 豊島 伸一	73回 マディーン 啓子	83回 矢頭 峰夫
56回 河西 啓二	59回 矢崎 豊国	62回 金子 浩之	67回 小平 攻	73回 窪田 敏	83回 中村 美穂
56回 小平 貞	59回 向山 喜一	63回 齊藤 亨	67回 横田 森太郎	73回 原 秀男	83回 森 政宏
56回 渡部 清	59回 金子 道子	63回 藤森 宏一	67回 平林 千義	73回 原 大	84回 赤羽 俊昭
56回 武居 富夫	59回 小松 守	63回 松野 洋一	67回 丸茂 義典	73回 小林 正和	84回 小海 健治
56回 青木 亨	59回 金子 博厚	63回 両角 實	67回 湯田 英人	74回 北原 嘉泰	84回 眞田 明美
57回 大井 利夫	60回 野澤 勲	63回 巨理 美代子	67回 名取 省三	74回 松縄 茂	84回 大澤 洋一
57回 五味 乙	60回 増沢 豊久	63回 尾澤 弘久	67回 守矢 早苗	75回 吉川 秀樹	88回 藤森 裕基
57回 池田 賜恩	60回 弓削 裕和	63回 海野 肇	67回 細川 正行	76回 関屋 孝行	88回 須藤 美香里
57回 今井 恒夫	60回 金丸 容哉	63回 河合 信也	67回 林 武昭	76回 北澤 道子	90回 荒井 要
57回 小林 浩	60回 篠原 健	63回 宮坂 尚利	68回 宮坂 静	76回 田中 修	91回 池上 薫
57回 矢崎 文彦	60回 今井 将隆	63回 溝口 登	68回 深澤 豊昭	76回 山本 哲也	92回 高原 由紀子
57回 篠原 康夫	60回 久保田 一夫	64回 長島 潔	68回 春山 明哲	77回 春日 敏彦	94回 原 豊
57回 中澤 富夫	60回 高砂 智之	64回 垣内 直	68回 藤森 照信	77回 田添 珠実	96回 熊谷 和則
58回 茅野 充男	60回 池場 康友	64回 祖父江 宏三	68回 小林 盛男	77回 薩摩林 恭子	
58回 寺島 亮三	60回 小川 浩史	64回 五味 勝	69回 渡辺 泰弘	77回 小林 良人	

## ふるさと 諏訪市からのご案内

### ～諏訪市への移住に興味のある皆様へ～

#### ■ふるさと回帰フェア2019へ出展します！

諏訪湖周移住プロジェクトとして、岡谷市・諏訪市・下諏訪町で共同出展していますので、移住相談ブースへ是非お越しください！

- 日時：令和元年9月8日(日)午前10時～(予定)
- 会場：東京交通会館12階イベントホール(東京都JR有楽町駅前)
- 内容：諏訪市への移住相談(しごと・住まい等)や支援制度のご案内
- 申し込み：不要、当日直接会場へお越しください。  
詳しくは、諏訪市公式ホームページをご覧ください。  
<http://www.city.suwa.lg.jp/www/iju/>

#### ■モンベルクラブ フレンドフェア2019秋へ出展します！

今年度から諏訪市は「モンベルフレンドタウン信州諏訪」へ登録されました。地域ブランド「SUWAプレミアム」の展示販売や移住相談もお受けしますので、是非お越しください！

- 日時：令和元年9月14日(土)～15日(日)午前9時～午後5時まで ※15日は午後4時まで
- 会場：パシフィコ横浜 展示ホールB・C(神奈川県横浜市みなとみらい駅前)
- 内容：地域ブランド「SUWAプレミアム」展示販売、移住相談等
- 申し込み：不要(但しモンベルクラブ会員対象)、当日直接会場へお越しください。

#### <お問い合わせ>

諏訪市企画部地域戦略・男女共同参画課 ☎0266-52-4141  
E-mail: senryaku@city.suwa.lg.jp

東京清陵会の現況

データベースから東京清陵会の現勢を見ると次のとおりである(2019年3月31日現在)。

- 1. 東京及びその近県に在住する同窓生(ただし、退会申出者を除く)。(2)上記のほか、本会の活動趣旨に賛同する同窓生。2. 会員現勢 総数3,080名(住所不明者1,246名を除く)(1)都県別会員数 東京都1,417名、神奈川県632名、千葉県390名、埼玉県370名、茨城県66名、群馬県23名、栃木県24名、その他158名(2)年次別会員数(別表1)3. 会費等納入状況(2018年4月~2019年3月会計期:2019年3月末現在)(1)納入者数会費310名、賛助金183名、合計374名(2)年次別会費納入者数(別表1)(3)年度別納入額および人数(別表2)

別表1 年次別会員数と会費納入状況(2019年3月31日現在)

Table with 6 columns: 回生, 現員, 不明, 計, 会費. Rows for ages 35-58 and 52-55.

Table with 6 columns: 回生, 現員, 不明, 計, 会費. Rows for ages 59-79.

Table with 6 columns: 回生, 現員, 不明, 計, 会費. Rows for ages 80-100.

Table with 6 columns: 回生, 現員, 不明, 計, 会費. Summary row for total counts.

- 注 1) 現員:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が把握できている方
2) 不明:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が不明な方
3) 会費:前会計期(2018.4~2019.3)会費あるいは賛助金納入者の人数
会費免除会員(~60回生、および115回生~)の人数 1,134名

別表2 年度別会費等納入額および納入者数

Table with 3 columns: 年度, 納入額, 納入者数. Rows for Heisei 26-30.

注) 以上は賛助金も含め会費等として処理している。

別表3 会員数と次期繰越金の推移

Table with 4 columns: 年, 会員数(名), 不明者数(名), 次期繰越金(円). Rows for years 2005-2018.

- 注 1) 次期繰越金は各年の3月末現在
2) 会員数、不明者数は翌年の5月頃現在

2019年度収支予算(案)自2019年4月1日~至2020年3月31日(単位:円)

支出の部

Table with 2 columns: 科目, 金額. Rows for total expenses and breakdown.

収入の部

Table with 2 columns: 科目, 金額. Rows for total income and breakdown.

(注)2019年度予算の収支差額は1,200円の剰余金となります。

収支計算書(案)自2018年4月1日~至2019年3月31日(単位:円)

収入の部

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異(予算の方が). Rows for income items and totals.

支出の部

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異. Rows for expense items and totals.

寄付金:本部40,000円 学校10,000円 事務局10,000円
その他の収入:本部より伊藤長七フォーラムお祝い金50,000円
東京50,000円と合わせ100,000円を支出(諸会費:70,000円、予備費:30,000円)



## 第52回東京清陵会 総会アンケート結果

回答総数:119(未回答/複数回答もあり、各設問の回答の合計は必ずしも総数に一致しない)

### 1. 今回の、開会式⇒パネル⇒懇親会 方式をどう思われますか?

- ①今回の方式がよい=52  
②従来の方式がよい  
(パネル⇒開会式⇒懇親会)=13

③どちらでもよい=49

### 2. 今回のパネルについて

- ①満足=25  
②まあ満足=54  
③普通=28  
④やや不満=11

⇒「①満足」と「②まあ満足」で全体の67%。また、①満足=5点、②まあ満足=4点、③普通=3点、④やや不満=2点とすると、全体では平均3.8点となり、まあ満足に近い結果。

### 3. 談論会

- ①満足=21  
②まあ満足=43  
③普通=36  
④やや不満=12

⇒「①満足」と「②まあ満足」で全体の57%。また、①満足=5点、②まあ満足=4点、③普通=3点、④やや不満=2点とすると、全体では3.7点となり、まあ満足に近い結果。

### 4. テーブル配置

- ①従来の年次学年別がよい=44  
②今回の学年別  
老若男女ミックスがよい=55  
③年次学年別で、希望者はテーマ別などの交流テーブル=18  
④自由席(本部懇親会のスタイル)=4

### 5. テーブルでミックスした世代と 交流できましたか?

- ①十分交流できた=5  
②まあ交流できた=59  
③挨拶程度=33  
④交流に関心がない=1  
⑤ミックス対象外(70歳以上)=6  
⇒「①十分交流できた」と「②まあ交流できた」で全体の65%。

### 6. 懇親会での同期以外との 交流希望について?

- ①近い世代と交流したい=35  
②違う世代と交流したい=43  
③同期との交流で十分=13  
④若い世代と交流したい=17  
⇒他世代との交流(②+④)で全体の56%、同期または前後(近い)世代との交流(①+③)で全体の44%。

### 7. 抽選会について

- ①毎年やってほしい=67  
②たまにはやってよい=35  
③不要=15  
⇒「①毎年やってほしい」と「②たまにはやってよい」で全体の87%。

### 8. 母校交流について(複数回答可)

- ①講師派遣が有効=68  
②職場見学が有効=58  
③母校訪問してみたい=26  
④生徒が東京に来て欲しい=15  
⑤画像で母校とつなぎ参加して欲しい=12  
⇒「①講師派遣が有効」「②職場見学が有効」(どちらも現在実施中)との意見が多く、①+②で全体の70%。

### 9. 同窓会事務局への要望は?

- (複数回答可)  
①会員を増やす=24  
②女性会員を増やす=21

- ③若手会員を増やす=44  
④総会懇親会出席者を増やす=31  
⑤年会費納入者を増やす=19  
⑥コスト削減を進める=9  
⑦同窓会の魅力を高める=44  
⑧イベントを増やす=15  
⑨同好会(継続的活動)の充実=8  
⑩会報の充実=8  
⑪ホームページの充実=35  
⑫同窓生の活躍、活動の共有を促進=18  
⑬母校生徒交流活動の充実=5  
⇒「③若手会員を増やす」「⑦同窓会の魅力を高める」「⑩ホームページを充実」を求める声が多かった。

金子哲哉(89回生)

### 事務局通信 「母校連携の深化」

同窓会母校連携活動が本格化して4年目を迎える。

①附属中学の東京研修旅行での職場見学受け入れ(10数ヶ所)は4年目、②高校キャリア講座への講師派遣(10人前後)は3年目。本年度は③清陵祭(6月22~23日)に同窓会の部屋を設け、生徒(入学から同窓生)に同窓会活動を理解、卒業後の参加につなげ、④本部同窓会総会(6月29日(土)、紅や)では、生徒の活動を総会隣室で掲示し、同窓生に母校の様子を知ってもらい、一層の母校応援に繋げたい。③④ともに当番幹事学年(86回生)と次年度(87回生)の献身的な協力で実現にこぎ着けられ深謝。来年以降も継続開催を計画しており、東京の皆様も、いずれかの機会にぜひ帰省、顔を出して頂ければ、企画した側として、これに勝る喜びはない。 事務局長 北原譲(82回生)

### 「東京清陵会」 ゴルフ同好会



## 第32回ゴルフコンペのご案内

会員の交流・親睦を兼ねてゴルフコンペを下記の要項で開催します。同期生などお誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。

- 日時:10月19日(土) 8時30分集合 9時10分スタート
- 場所:紫カントリークラブ あやめ36 東コース  
(常磐自動車道・柏I.Cから、約20分。つくばエクスプレス・流山おおたかの森駅で東武野田線に乗り換え、東武野田線「野田市駅」下車。タクシーで約10分)
- プレー代:約20,000円(食事付) 会費:5,000円  
参加希望の方は、☎03-3518-2385 スタジオパラム=清水(84回生)まで。  
FAXの場合は、住所・氏名・卒業回・連絡先を明記の上、お申し込みください  
(FAX:03-3518-2386)。
- 幹事=青木基浩(82回生)、小海健治(84回生)

今年4月16日に行われた第31回ゴルフコンペ。10名が参加、優勝は河合信也さん(63回生)、準優勝は清水信次さん(84回生)。



# 東京清陵会2018(平成30)年度事業報告

- 2018 (平成30年度)**
- 3・19 総会・懇親会進行会議
  - 4・11 第29回東京清陵会ゴルフコンペ (Jゴルフ鶴ヶ島)参加者13名
  - 4・11 南信同窓連第57回親睦ゴルフ会(中山カントリークラブ)参加7校19名
  - 4・21 第1回事務局会議(目黒さつきビル)
  - 4・24 第169回清陵勉強会(剛堂会館) 講師 小平秀一(85回)
  - 5・12 第34回寒水会、6・24 第35回、7・29 第36回、8・19 第37回、9・24 第38回、10・13 第39回、11・18 第40回、12・22 第41回
  - 5・15 常任幹事会(南部労政会館) 出席者15名
  - 5・27 第6回新春歓迎・学生交流会(Bistro Barnyard Ginza)参加者19名
  - 5・27 南信同窓連第47回定時総会(ホテルメトロポリタンエドモント)参加17校74名
  - 6・26 第170回清陵勉強会(剛堂会館) 講師 金子忠昭(84回)
  - 6・30 清陵本部同窓会総会・懇親会(紅や)参加者354名
  - 7・7 第54回東京同窓連定期総会(アルカディア市ヶ谷)参加47校226名
  - 7・9 総会・懇親会進行会議
  - 7・14～15 寒水会・長野県立歴史館 資料調査
  - 7・25 学年幹事会(南部労政会館)出席者20名
  - 8・15 会報「東京清陵会だより」29号発行 発送部数3,500部
  - 8・28 第171回清陵勉強会(剛堂会館) 講師 守矢早苗(67回)
  - 9・4 総会・懇親会進行会議
  - 9・27 総会会場アルカディア市ヶ谷下見
  - 10・5～6 総会・懇親会準備
  - 10・7 第53回総会・懇親会の開催(アルカ

- ディア市ヶ谷)参加者166名
- 10・13 第30回東京清陵会ゴルフコンペ(紫カントリークラブ あやめ36西)参加者12名
- 10・21～22 第31回南信同窓連親睦旅行(銚子・鹿島方面)参加15校42名
- 10・23 第172回清陵勉強会(剛堂会館) 講師 北條浩彦(84回)
- 11・6 事務局整理(八丁堀事務局)
- 11・7 南信同窓連第58回親睦ゴルフ会(中山カントリークラブ)参加8校22名
- 11・13 東京同窓連第20回親睦ゴルフ会(本千葉カントリークラブ)参加14校38名
- 11・11 本部同窓会物故者慰霊法要(地藏寺)
- 11・20 第2回事務局会議(南部労政会館):参加13名
- 11・25 第5回働くことを考える若手の会(南部労政会館)参加者12名
- 12・7 南信同窓連忘年会(東天紅オペラシティ)参加17校76名
- 12・12 第173回清陵勉強会(剛堂会館) 講師 寺島亮三(58回)

- 2019 (平成31年度)**
- 2・13 第42回寒水会、2・3 第43回、2・17 第44回、2・27 第45回、3・10 第46回、3・25 第47回
  - 2・9 東京同窓連新年懇親会(アルカディア市ヶ谷)参加47校285名
  - 2・24 本部同窓会常任幹事会(清陵会館)
  - 2・26 第174回清陵勉強会(南部労政会館) 講師 臼田孝(84回)
  - 3・4 第6回ミドル交流会(南部労政会館)参加者27名
  - 3・16 第2回伊藤長七研究フォーラム(東洋大学)
  - 3・18 東京清陵会企画会議(南部労政会館)

# 東京清陵会2019(平成31)年度事業計画(案)

- 1 第53回総会・懇親会の開催(5月11日・トキラルーム)
- (10月6日・アルカディア市ヶ谷)
- 2 会報「東京清陵会だより」30号の発行(8月上旬)
- 3 常任幹事会、学年幹事会の開催(5月、7月・南部労政会館)
- 4 編集/進行会議(随時・当番幹事86回生)
- 5 事務局会議(定例4、11月・臨時)
- 6 第7回新春歓迎・学生交流会の開催(6月2日・ビストロ・バーンヤード)
- 7 第5回働くことを考える若手の会(プレ就活)開催(11月24日・南部労政会館)
- 8 第7回ミドル交流会の開催(2020年3月2日・南部労政会館)
- 9 第3回女子会の開催
- 10 清陵勉強会(原則偶数月の第4火曜日・南部労政会館)
- 11 事務局・委員会制度の定着
- 12 会員情報管理の高度化・効率化(データベース整備とクラウド移行検討・実施)
- 13 東京清陵会ホームページの再開(フェイスブック活用試行運用)
- 14 懇親ゴルフ会の開催(4月16日、10月19日)
- 15 寒水会(伊藤長七研究会、小石川高校同窓会紫友会との共催)への参加
- 16 本部同窓会、南信同窓連、東京同窓連行事への参加
- 17 母校・生徒との交流の拡充(講師派遣・職場受入れ体制の整備)
- 18 会則の整備・運営要領作成検討
- 19 その他必要とする事業

## 編集後記

「変わった学校だねえ。」同窓会関係の打ち合わせに頻繁に出かける私を見て、清陵とは全く関係の無い妻と娘が呟いた。自分自身、こんなにもディープに同窓会に関わる事になるとは思っても見なかった。しかし、多様な人生を生きてきた昔の仲間たちと未来の諏訪について話し合う事は、青臭いけど、楽しい。やっぱり清陵最高！万歳！小松聖史(86回生)

## 訃報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます(敬称略)。

氏名	年次	逝去年月日
池田 賢治	36	2019/3/22
土橋 秀孝	37	2009/1/
吉澤 千明	39	2019/5/5
小尾 洋介	40	2018/6/23
那須野 博人	41	2014/4/25
今井 五十二	43	2015/3/1
松本 文彦	43	不明
小松 昌平	43	2018/12/14
小松 莊亮	43	2017/3/
川原田 裕	45	2016/10/14
矢島 利一	45	2017/10/18
小川 正	46	2018/5/6
長田 源弘	46	2018/2/
武井 清六	46	2018/4/26
松原 小一郎	46	2018/1/13
有賀 秀雄	47	2019/4/13
宮坂 正昭	47	2018/9/17
板井 道生	48	2017/7/14
久保 方宏	48	2017/11/30
宮澤 弘	48	2018/6/25
片瀬 豊	49	2018/8/8
高尾 利数	49	2018/5/6
木村 政人	50	2017/7/22
小林 速巳	50	2016/3/26
小林 正顕	50	2018/12/2
白川 栄一	50	2016/9/9
野口 健児	50	2018/9/4
和田 修一	50	2019/4/2
小川 弥太郎	51	2018/5/23
細川 博道	51	2016/8/25
河西 利雄	51	2017/10/23
小林 信一	51	2018/7/2
佐藤 光義	51	2017/11/6
藤森 晃	51	2018/2/20
和田 則彦	51	2018/7/26
北沢 俊之	52	2018/6/16
土橋 光廣	52	2018/8/6
藤森 勝三	52	2017/10/12
小口 晶弘	55	2017/1/27
池上 忠男	56	2018/12/6
渋沢 広	56	2004/10/20
淵上 良子	56	2018/5/6
有賀 四郎	58	2016/2/26
高橋 脩一	58	2017/5/18
新村 義郎	58	2016/9/6
生田 修造	59	2017/10/21
伊東 知夫	59	2017/10/26
島田 泉	59	2018/7/6
田中 虔一	59	2018/3/18
濱 實	59	2018/4/19
石田 友美	61	2018/11/12
後藤 泰久	61	2019/2/8
飯田 康人	61	2016/3/1
渡辺 博美	61	2018/7/26
小沢 好邑	62	2018/12/7
丸茂 幸男	62	2015/4/28
米沢 節夫	62	2017/3/9
鮎澤 純史	63	2018/7/28
鮎澤 文雄	63	2017/11/8
坂本 洋夫	65	2018/11/20
増沢 弘子	68	2019/5/2
宮坂 幸男	72	2019/6/11
永井 孝	73	2018/1/28
小泉 史憲	74	2017/12/23
林 治	79	2016/

●事務局にご連絡をいただいた方(本会会報第45号含む)を掲載